

2007年 社会・環境報告書

Social and Environmental Report



地球環境にやさしい会社を目指します

会社概要 (2007年3月現在)

会 社 名 伊藤ハム株式会社

設 立 1948年(昭和23年)

創 業 1928年(昭和3年)

本 社 事 務 所 兵庫県西宮市高畑町4番27号

代 表 者 代表取締役社長 河西 力

資 本 金 224億1,500万円

売 上 高 5,043億4,800万円(連結)

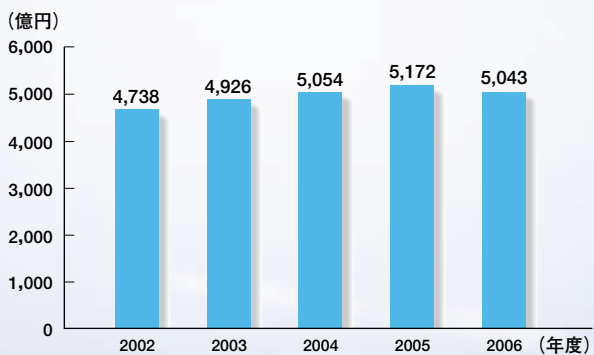
連結対象会社 連 結 子 会 社 / 37社
持分法適用関連会社 / 13社

従 業 員 数 2,067人(連結: 5,317人)

主 な 事 業

- 食肉加工品の製造及び販売
- 食肉の加工及び販売
- 調理加工食品、惣菜類の製造及び販売など

売上高の推移 (連結)



表紙のことば

【ホッキョクグマ】

地上最大の肉食獣ホッキョクグマが生息する北極は、温暖化の影響がもっとも顕著に現れる地域といわれています。過去100年の間に、北極圏では平均気温が約5度も上昇し、海氷の厚さも約40%減少。ホッキョクグマは春と秋、海氷の上で狩りをしますが、氷の解ける時間が長くなるとエサが食べられなくなってしまいます。その頭数は年々減少が確認されており、IUCN(国際自然保護連合)のレッドリスト2006年版では、絶滅の可能性のある「危急種(VU)」に指定されています。



INDEX

会社概要／表紙のことば	1
「2007年 社会・環境報告書」について	2
ごあいさつ	3

○経営方針

社是／企業理念／グループ経営ビジョン／コンプライアンス	5
-----------------------------	---

○社会性報告

伊藤ハムグループ経営ビジョンより

1. お客様とのかかわり	8
安全・安心な商品の提供とお客様の健康と豊かな食文化への貢献／伊藤ハムが考える「食育」	
2. 地域社会とのかかわり	11
社会貢献活動／自然保護活動	
3. 従業員とのかかわり	15
労働安全衛生と健康づくり	

○環境報告

環境宣言／基本理念／行動指針

1. 第2次中期環境目標の取り組み結果と自己評価	17
2. 環境負荷の全体像	19
3. 環境保全活動の沿革	20
4. 環境マネジメント	21
環境マネジメントの推進組織／環境監査の実施／ISO14001認証取得／グリーン購入の推進 関係法規及び法の遵守／環境管理への問い合わせ／緊急時の対応策／環境会計	
5. 環境負荷低減の取り組み	25
省エネルギーの取り組み／廃棄物の削減と有効利用 温室効果ガスと化学物質、水質汚濁物質の排出抑制／その他の環境負荷低減活動	
6. 環境コミュニケーション	29
環境情報開示／従業員教育・地域とのコミュニケーション	

○環境データ集

伊藤ハムグループの環境データ	31
サイトデータ(伊藤ハム・関連会社)	33

○伊藤ハムグループ 社会・環境かるた

「2007年 社会・環境報告書」について

編集方針

2000年から「環境報告書」を発行し、今回で8回目の発行となります。
2005年の報告書からは、社会的側面の記載を充実させ、タイトルを「社会・環境報告書」としました。
本報告書は、伊藤ハムグループの社会活動や環境保全活動の取り組み内容とその結果を誠実に分かりやすくお伝えし、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションをより一層深めることを目的に発行しています。
より多くの皆様にお読みいただき、伊藤ハムグループの社会活動、環境保全活動をご理解いただけるようにページ構成、写真、図表などの表現の工夫に努めました。
是非、本報告書をご高覧いただき、活動や課題に対して忌憚のないご意見・ご要望を賜り、今後の社会活動、環境保全活動に生かしたいと思います。
報告内容については、環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」を参考にしています。

対象範囲

◇報告対象組織	基本的には伊藤ハム株式会社の取り組みを報告していますが、一部の報告ではグループ会社についても取り上げています。 *エネルギー、廃棄物、大気、水質への排出などにかかわる実績については、伊藤ハムの生産8工場とグループのハム・ソーセージ生産主要3工場のデータを集計しました。 伊 藤 ハ ム 株 式 会 社：九州工場、六甲工場、神戸工場、西宮工場、豊橋工場、中部プラント、東京工場、船橋工場 伊藤ハムデイリー株式会社：東北工場、小樽工場 伊 藤 ハ ム 食 品 株 式 会 社：小矢部工場 *サイトデータなど一部の項目では、サンキョーミート株式会社、伊藤ハム物流株式会社の取り組みについても掲載しています。
◇報告対象分野	事業活動にともなう環境的側面の計画・取り組み・結果を中心に、社会的側面についても報告しています。
◇対 象 期 間	基本的には、2006年度(2006年4月1日～2007年3月31日)の取り組みを報告していますが、一部では2006年度以前・以降についても報告しています。 中部プラントは2006年8月末日に閉鎖しました。よって環境データは同日までのものを掲載しています。

ごあいさつ

伊藤ハムは、2008年には創業80周年を迎えます。「事業を通じて社会に奉仕する」を社是とし、創業以来、社会とともに成長し、社会から信頼される企業であり続けるために、事業分野はもちろんのこと、社会貢献活動、地球環境への配慮などの分野においても、さまざまな取り組みを実践してまいりました。

創業80周年という新たな出発点に向けて、企業活動の基盤そのものであるCSR（企業の社会的責任）のレベルをより高めていきたいと考えています。そのためには、コンプライアンス（企業倫理の遵守）の徹底を最重要課題とし、伊藤ハムグループ全員が、企業倫理の遵守を基本に考えて行動しなければなりません。本業はもちろんのこと、社会貢献、環境保全など事業活動に係るすべての分野において、一人ひとりが行動の中で実践していくことが不可欠であると考えています。

また、「安全」で高品質の商品をお届けし、お客様に「安心」していただくとともに、“おいしい笑顔”を見せていただけるようにすること、そしてお客様の健康と豊かな食文化の創造に貢献することは、「食」に携わる企業としての社会的責任であると考えており、常に誠実な姿勢を持って、全力で前向きに取り組んでまいります。

2005年6月、私たちが生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことを目的に「食育基本法」が公布されました。伊藤ハムでは、2007年を弊社の「食育元年」と位置付けており、1月には「食育活動理念」を制定し、本格的に取り組を進めようとしているところです。「伝えていきたい 食べるよろこび」をメインメッセージに、伊藤ハムが考える「食育」を皆様にお伝えし、皆様のお役に立てるような取り組みを展開していきたいと考えています。

ところで、企業がその社会的責任を果たしていくためには、従業員の社会への参画意識や帰属意識を高めることが必要不可欠であると考えています。そのために、「社会貢献活動の理念と方針」を定め、それに基づいた取り組みを進めています。

例えば、森林保護を市民の手で行う「こうべ森の学校」への活動資金の提供と従業員ボランティアの派遣を継続して行い、海岸や河川、湖沼など水辺のクリーンアップ活動は年々活動範囲を広げて取り組んでいます。そのほかに、地域の学校に出向いて行う環境教育への従業員講師の派遣や自然体験学習、ユニセフ支援活動など、将来を担う子どもたちへの支援活動も継続して行っています。また、毎年「社会貢献推進期間」を設けるとともに、ボランティア体験学習やボランティアセミナー

を開催するなど、従業員のボランティア・マインドの醸成と社会貢献活動への参画を促すための取り組みも継続して行っています。

さて、私たちの住むこの地球を取り巻く環境に目を向けてみますと、地球温暖化、オゾン層の破壊、資源枯渇など地球規模の人類共通の課題から、事業活動にともなって発生する廃棄物排出量の増大、騒音、悪臭など身近な問題まで多岐にわたっています。伊藤ハムグループの事業活動にとっても決して無関係なものではありません。地球環境の悪化を食い止め、身近な問題の発生を未然に防止するためには、私たちの工場や事業所における環境管理活動を誠実かつ確実に行之、従業員一人ひとりが環境に配慮した行動をとることが大切であると考えています。

特に、地球温暖化の問題は、国、個々の企業、そして市民一人ひとりがそれぞれの立場で真剣に考えて、その役割を果たさないとストップできない大きな課題です。2006年4月には「改正省エネルギー法」が施行されるなど、地球温暖化防止活動も待ったなしという状況にきています。伊藤ハムグループでは、省エネルギーなど地球温暖化防止に貢献できるような取り組みをより一層進めていきたいと考えています。

伊藤ハムグループのCSRのレベルを高め

ていくにはまだまだ課題はありますが、お客様、お取引先様、地域社会、従業員など、さまざまなステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切にし、コンプライアンス、社会貢献活動、環境保全の取り組みを誠実かつ着実に行っていきます。それらを通じて企業の社会的責任を果たし、皆様方からの「信用」と「信頼」を高めるとともに、企業の持続的な発展と企業価値の向上に努めていきたいと考えております。

現状での取り組みの進捗状況について本報告書によりご報告いたします。

伊藤ハムグループの社会貢献活動及び環境保全活動とその成果に対する忌憚のないご意見、ご鞭撻を賜り、私たちの活動に生かすとともに、継続して改善に取り組んでまいります。

2007年 6月



代表取締役社長

河西 力

経営方針



伊藤ハムグループは、社会から信頼される企業であり続けるために、事業分野はもちろんのこと、地球環境への配慮、企業倫理の遵守、社会貢献活動などの分野においても、社会の一員としての責任を果たせるように努力します。

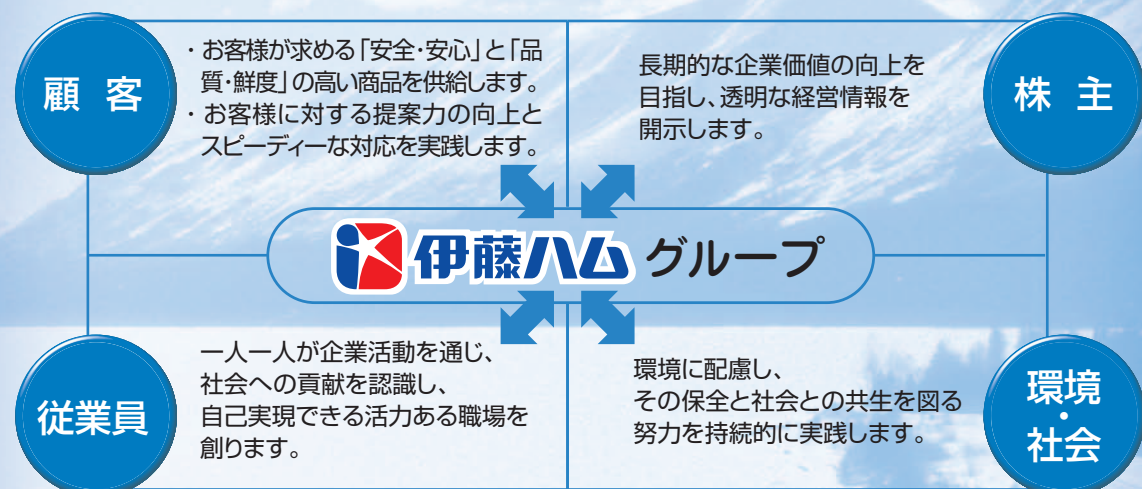
伊藤ハムグループのメッセージは「あふれる笑顔」です。安全・安心な商品をご提供するのはもちろんのこと、企業精神である「強く、正しく、遅しく」を固く守り、楽しさや安らぎ、喜びを感じていただけるような、明るく元気いっぱい輝く企業を目指します。

社 是

事業を通じて社会に奉仕する

企業理念

お客様（顧客）の「信用」と「信頼」から「安全」と「安心」が生まれます。「安心」こそが伊藤ハムブランドのすべてです。ブランド力を日々強化し、企業価値を高めていくことが社会的貢献であり私達の使命です。



グループ経営ビジョン

グループ基本理念に基づき将来の姿として次の3つのことを目指します。

1 「コーポレートブランドを高め続ける企業を目指します」

顧客満足を高め続けるだけでなく、株主を重視した経営を行い、タイムリーなディスクロージャーを行います。また、地球環境への配慮と社会貢献活動を大切に社会との共生を図ります。

2 「利益ある成長を続け企業価値の最大化を目指します」

マーケティング力を高め、時代の変化に対応した新たなビジネスモデル、商品開発に挑戦するとともに、各部門の技術の深耕により、品質と安全性をより一層高めます。また外部環境に左右されない利益体質の確立を図るため、ローコスト経営を推進し、資産効率とコストパフォーマンスを高める経営を行います。

3 「チャレンジ精神の高揚と活力ある企業風土づくりを目指します」

人事の流動化、人材育成、能力開発を促進し、個人のスキルを重視するとともに女性の能力を活用し、活力ある企業風土を醸成します。同時にフラットでスリムな組織により、ムダを省きスピードを重視した経営を目指します。

コンプライアンス

ステークホルダーの皆様方からの信頼を高め、健全で誠実な企業経営を行う上で守るべき考え方を「企業倫理規範」として策定しています。企業価値の向上のためには、企業倫理の高い公正な企業経営を徹底することが基本であると考え、コンプライアンス（企業倫理の遵守）の強化に取り組んでいます。

企業倫理規範

1. 公正な行動

伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

2. 倫理観と遵法の精神

常に遵法を心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

3. 関係法令の社内徹底

事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンスなどを通じて社内徹底を図ります。

4. 法令違反の早期是正と厳正対応

業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。



コンプライアンス・ハンドブック

推進組織（CSR委員会）

委員長	島田 恒（京都文教大学教授）
委員（順不同）	堅正 憲一郎（監査役/弁護士） 藤原 俊夫（監査役） 池村 昌人（伊藤ハム労働組合中央執行委員長） 増崎 知次（伊藤ハム監査室室長） 岩本 信剛（伊藤ハムCSR本部長）
事務局	CSR本部コンプライアンス推進担当

従業員教育

従業員のCSRやコンプライアンスに対する意識を高め、行動に結びつけるために、CSR講習会、新入社員研修、階層別研修や所長会議や店長会議など、さまざまな場面でコンプライアンスについての教育を行っています。



研修風景

コンプライアンスに関する規程の整備

コンプライアンスに関するルールを明確化し、従業員に周知するためにコンプライアンスに関する規程の整備を進めています。

なお、相談窓口の対応手順や通報・相談者の保護などについては、「社内通報規程」に詳細を規定しています。



- コンプライアンス推進規程
- 社内通報規程
- 内部者取引管理規程



適切な情報の開示及び共有化

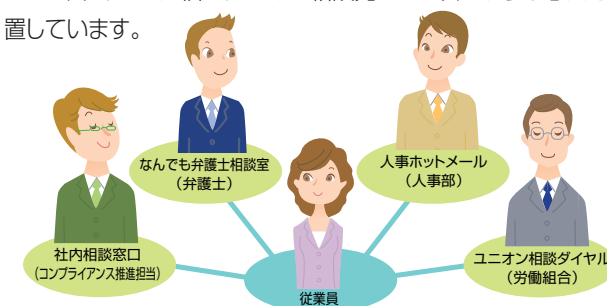
従業員にコンプライアンス・マインドを浸透させ、日常業務の中で実践するために、周知・啓発活動を行っています。効果が高めるために社内イントラネットや社内報を使ってコンプライアンスに関する情報を開示しています。



社内イントラネットの画面

相談窓口の設置

違法行為、社内ルール違反や社会的良識からの逸脱を見かけたり、疑問を感じた場合には、まず上司に報告することを基本としています。しかし、それが難しく従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として次のような窓口を設置しています。



コンプライアンスデー

従業員にコンプライアンス・マインドを浸透させるために、毎年9月1日を「コンプライアンスデー」と定め、標語の募集、アンケートの実施やポスターの掲示を行っています。



意識調査の実施

コンプライアンス・マインドの浸透状況を把握し、推進活動に役立てるとともに、従業員にその結果を報告し、各職場での実践につなげています。

社会性報告



伊藤ハムグループ経営ビジョンより

コーポレートブランドを高め続ける企業を目指します

- 限りなく顧客満足を高め続けます。
- 株主を重視し、タイムリーなディスクローズを行います。
- 地球環境への配慮と社会貢献活動を大切にします。
- ・
- ・
- ・

1 お客様とのかかわり

伊藤ハムグループでは、お客様に満足していただける、高品質で鮮度の高い商品、安全で安心な商品をお届けすることは、食品メーカーの使命であり、社会的責任の一つであると考えています。社は「事業を通じて社会に奉仕する」を常に念頭に置いて、安全・安心な商品づくりに努めるとともに、豊かな食文化の醸成に貢献するための取り組みを行っています。

安全・安心な商品の提供とお客様の健康と豊かな食文化への貢献

食品安全マネジメントシステムISO22000認証取得

伊藤ハムグループの食肉加工センターでは、食品安全マネジメントシステムのISO22000を認証取得し、安全・安心な商品供給機能の強化に取り組んでいます。

ISO22000は、2005年9月に制定された食品安全マネジメントシステムの国際規格であり、ISO9001をベースにHACCPの管理手法を取り入れた規格です。



サンキョーミート株式会社 有明ミート工場

《 ISO22000認証取得事業所 》

会社名	事業所名	取得年月日
サンキョーミート	有明ミート工場	2005年 12月27日
	霧島ミート工場	2007年 2月28日
IHミートパッカー	宮城ミートセンター	2006年 3月31日
	東京ミートセンター	2007年 2月28日

特に、サンキョーミート(株)有明ミート工場は、「ISO9001」「ISO14001」「対米輸出牛肉処理施設」の認証を併せて取得しており、と畜場、食肉カット場として国内有数の衛生的な設備、品質管理システムを持っています。食肉部門の生産拠点について、順次ISO22000の導入を進め、今後も安全・安心な商品供給機能を強化いたします。

「食」に関する情報発信

お客様の健康と豊かな食文化に貢献するためには、高品質で新鮮、安全で安心な商品をお届けするとともに、「食」に関する情報を提供することも食品メーカーの大きな役割です。

弊社ホームページでは「正しい食習慣のサポートのために!」「添加物って何?」「楽しい食文化のために!」など、食卓をおいしく豊かにする「食」に関するさまざまな情報を発信しています。詳しくは弊社ホームページをご覧ください。

<http://www.itoham.co.jp>



安全・安心な品質管理による物流

伊藤ハムグループでは、「安全・安心」の品質管理を基本に鮮度の高い商品を供給するために、各地にロジスティクスセンターを設立して商品供給を行っています。

安全・安心の品質管理のための道具・その1

ドックシェルターの完備、温度帯別一貫物流体制

各地に設置しているロジスティクスセンターでは、ドックシェルターを完備するとともに、温度帯別一貫物流体制を確立しています。



ロジスティクスセンター



営業所やお得意先の配送センター

徹底した
温度管理

安全・安心の品質管理のための道具・その2

バーコードを活用した物流管理システム

伊藤ハムでは確実・迅速な物流を実践するためにCODE 128のバーコードを導入し、受注情報から在庫管理・実績管理までリアルタイムに一元管理を実現しています。



伊藤ハムで使用しているCODE 128のバーコード。品名、品名コード、品質保持期限などが記載されています。

もっとおいしくコミュニティ

伊藤ハム商品のコンセプトである「おいさがブランド」を求めて、味に興味のある主婦の方を対象にモニターを行っています。その主婦の方から弊社商品の味をさらにおいしくするために、さまざまな角度からご意見を伺い、お客様のニーズを商品に反映していく試みで、2004年11月よりスタートし、今後も継続して実施します。お客様の代表であるモニターのご意見で「おいしくなった」と認められた商品のパッケージに下記のマークが入ります。



多くの人達の「あふれる笑顔」をイメージし、顔の真中に「おいしさへの驚きや感嘆、アイデア」があるということを表現しています。

《 もっとおいしくなった商品の一例 》



甘さを抑え塩味を効かせ、スライスを厚くして7枚入りから6枚入りにして、ベーコンらしい風味と食感を出しました。



伊藤ハムが考える「食育」

日々の忙しさの中で「食」の大切さが忘れられがちな現代社会ですが、2005年に「食育基本法」が公布され、「食」への意識を高める取り組みが企業、学校、地域などで全国的に進められています。伊藤ハムでは、2007年1月に「食育に

関する基本理念」を制定しました。今後、食を扱う企業として、「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さを活動テーマを通じて伝えていきます。

「食育」に関する基本理念

食育活動理念

伊藤ハムは、健全な生活の基礎となる「食」の大切さや楽しさを伝え、今、求められている「家族揃っての食事」が、語らいや団らんを育むことを伝えていきます

メインメッセージ

伝えていきたい
食べるよろこび

食育活動方針

- 安全・安心で良質なたんぱく質を提供します
- 正しい食習慣をサポートします
- 貴重な食資源を大切にします
- 楽しい食文化を発信します

コーポレートメッセージ あふれる笑顔

「あふれる笑顔」を実現させるために、食事を味わう喜びや、家族と一緒に食べる楽しさ、健康をつくる食事の大切さを、しっかりと伝えていきます。

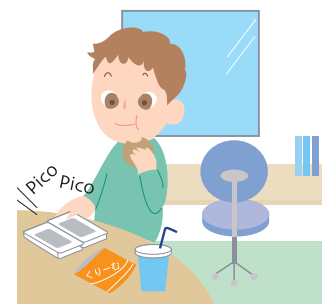


「食」がおそろそかになった日本社会

かつては家族が食卓を囲み、おしゃべりをしながら食事することは、ごくあたりまえのことでしたが、現代では子どもが自室にこもり、ゲームをしながら菓子パンで食事を済ませる「孤食」も珍しくありません。この他、親が残業で遅くなり簡単な食事で済ませる、子どもが塾通いのため夜遅くに食事をするなど、生活の乱れが

食生活の乱れを引き起こしていることもあります。

一方で、好きなときに好きな食べ物が手に入るという状況があり、家族団らんでの食事の減少、食に対する意識の低下など、現代社会では「食」に関する問題点が数多く生じています。



食育活動テーマ

伊藤ハムでは、「食」を取り巻く社会環境の変化により生じている「食」の問題点解消に役立つよう、「食育」の活動テーマを通じて「正しい食のライフスタイル」を提案します。

テーマ 1 1日の活力源である朝食を肉製品や食肉を使って食べることを提案します

最近子どもから大人まで、朝食を食べない人が増えてきています。朝食を抜くと脳のエネルギー源であるブドウ糖が不足してしまいます。その結果、イライラしたり、頭が活発に働かず、勉強や仕事に集中できないという悪影響を及ぼします。

テーマ 2 良質なたんぱく源である食肉や肉製品のバランスの良い食べ方を提案します

食肉はたんぱく質など豊富な栄養素の多い食品ですが、身体に応じた食べ方が必要です。食肉の過剰摂取は健康によくありませんが、最近高齢者などに多い食肉の過剰摂取や、ダイエットでの摂取不足といった問題があります。つまり食べ方のバランスが大事なのです。

テーマ 3 食肉や肉製品を使って野菜をおいしく食べることができるように提案します

厚生労働省が推奨する1日の野菜摂取量は350グラム以上ですが、子どもの野菜嫌いや外食などで、野菜不足になることも多いようです。食肉を上手に使うことで、野菜はもっとおいしく食べられます。

アレルギー物質

*低年齢向け商品を中心に、アレルギー物質をできる限り使用せず、さらに情報を分かりやすく開示していきます。

「食」への理解を深める活動

伊藤ハムが2006年度に行った取り組みです。今後、これらの取り組みを充実させるとともに、さまざまな取り組みを進めていきます。

“食とeco” わくわく探検隊

野外での体験活動を通して、子どもたちに「食」と自然の大切さを伝える活動です。



▶ 詳しくは 11 ページへ

キッズプロジェクト「ハム工場を学ぼう」

工場見学、ウインナー手作り体験を通じて、「食」に対する関心を高めていただくための活動です。



▶ 詳しくは 11 ページへ

「食」に関する情報発信

弊社ホームページにおいて「食」に関するさまざまな情報を提供しています。



▶ 詳しくは 8 ページへ

朝食を抜く子どもが10人に2人

小学生が家庭で朝食を食べる割合は平均8割で、中学生、高校生と学齢が上がるにつれ、低くなる傾向があり、大人から子どもまで家庭内での朝食喫食率が低下しています。

朝食は、脳へのエネルギーの補給に大変重要な「食」シーンです。ブドウ糖は脳の唯一のエネルギー源ですが、肝臓で12時間しか蓄えられません。前日の7時に夕食をとったとしたら、翌朝の7時には蓄えがなくなっています。ですから、朝食を抜くと、右のような状態になってしまうことがあるのです。

低血糖により一種のストレス状態が発生

勉強に身が入らない

集中力がなくなる



2 地域社会とのかかわり

2003年4月に社会貢献活動理念、活動方針を策定してスタートした伊藤ハムグループの社会貢献活動、自然保護活動は着実に拡大し、活動の輪が広がっています。

社会貢献活動

社会との共生を目指した活動をグループ全体に広げるための支援制度である「ボランティア休暇制度」、「従業員を表彰する制度」の制定や事業所でのボランティアセミナーの開催の効

“食とeco” わくわく探検隊の活動

地域（西宮市）の親子が食べ物と環境のかかわりを野外で学習するこの活動は、非常に好評で参加希望者が多く、定例の行事になりました。

この活動はNPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）と連携し、春と秋に実施しています。参加者は、周辺の生き物、植物などの自然に触れながら、体験を通じて食べ物と環境のかかわり、自然の大切さを学びます。



「甲山」の頂上を目指して



野外炊事



川の生き物を観察

甲山山頂での草花遊びや昆虫採集

果として、全国の事業所でボランティア活動が実施され、また地域に密着した活動として定着しつつあります。それらの活動は地域社会に溶け込み、さらに拡大する傾向を見せています。



伊藤ハム「食とeco」わくわく探検隊

学校へ出向いて行う環境学習「出前授業」

NPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）が主催する「環境学習支援プロジェクト」に2004年より参加し、環境学習「出前授業」を行っています。

西宮市立平木小学校	5年生	46名
武庫川女子大付属高等学校	2年生	90名
西宮市立北六甲台小学校	5年生	25名
西宮市立安井小学校	5年生	30名
西宮市立東山台小学校	5年生	90名



東山台小学校

ユニセフ支援活動

グループの全事業所でユニセフ募金活動に取り組みました。集まった募金額にマッチングギフト（会社拠出分）を併せて1,003,330円を社団法人ユニセフ協会に寄付しました。東京地区と兵庫地区では街頭募金活動「ハンド・イン・ハンド」に参加し、グループ全社で従業員へのユニセフグッズのカタログ斡旋販売も実施しました。この活動は今後も継続して実施します。



社内で行った募金活動



街頭募金活動



ユニセフから感謝状

被災地救援支援活動

国内外で発生する自然災害で、被害に遭った人々の支援を目的に義援金や弊社の製品を救援物資として贈る活動を行っています。

【2006年度の実施地域】

- インドネシア・ジャワ島中部地震の被災地
- 梅雨前線にともなう長雨で被害を受けた沖縄県1市1村
- 梅雨前線にともなう長雨で被害を受けた長野県2市1町・鹿児島県3市3町・宮崎県1市
- 台風13号による竜巻と突風の被害を受けた宮崎県延岡市
- 竜巻と突風により被害を受けた北海道常呂郡佐呂間町

社会貢献推進期間

グループ全社で、「社会貢献推進期間」（9月1日～10月31日）を定め、従業員の意識向上と積極的な社会活動への参加を促す活動をしています。期間の啓発ポスターには全従業員から募集したキャッチフレーズを使用し、全国の事業所に掲示しています。

また、全国の活動の実態を従業員に伝え、意識啓発を図るために全国の主要事業所で「巡回社会貢献パネル展」を実施しています。

- 2006年度キャッチフレーズ
「やってみよう! その気持ちを大切に」



主要事業所を巡回した社会貢献パネル展

ボランティア支援活動

毎年9月から10月にかけて、従業員のボランティア意識の向上と社会活動への参加を促すことを目的に、社外から講師を招いて「ボランティア入門講座」を開催しています。初心者でも分かりやすいテーマと内容で行いました。

参加した従業員からは、「ボランティアが身近に感じられ、行くきっかけになった」「ボランティアを通じて自分自身も成長できそう」との声があがっていました。



ボランティアセミナー
講師：社会福祉法人大阪ボランティア協会事務局長 早瀬 昇氏

- 【2006年度の実施事業所】
- 豊橋工場
- 目黒事務所
- 九州工場



キッズプロジェクト「ハム工場を学ぼう」

弊社本社所在地である西宮市の地域の子どもたちを対象に、「食」「環境」に関する興味・関心を高めていただく「ハム工場を学ぼう」。

これは、参加者を一般から募集して夏休みに行っている社会貢献活動です。

参加者は親子で「ウインナー作り体験」や「工場見学」、西宮工場で作られた「ハム・ウインナーの試食」などの体験をしていただきます。こうした体験により、食べ物を通じて「命」の大切さ、地球環境と食べ物の密接な関係を楽しく学んでいただくことを目的としています。



子どもたちへの支援活動



社会への支援活動

自然保護活動

伊藤ハムグループは、社会貢献活動の一環としてより良い自然環境の保全に寄与することを目的に地域の人たちと協

働して自然保護に取り組む活動をしています。

森林保護活動 — こうべ森の学校

2002年にスタートした「こうべ森の学校」は回を重ねるごとに参加者が増え市民による森林保護活動として成長し、六甲山の自然保護活動の重要なボランティア団体になりました。

この活動は、市民・行政・企業が協働で行う森林保護活動を

推進するプログラムで、弊社は活動資金を提供しており、多くの従業員ボランティアが参加しています。



この看板も間伐材でつくられています

- ◇活動日：奇数月は第2土曜日、偶数月は第3日曜日
- ◇場所：六甲山地再度山（神戸市）周辺の森林
- ◇活動内容：森の手入れ（間伐、下草刈り、植樹など）、苗づくり、間伐材を利用したログハウスづくりや木工細工など
- ◇参加人数：2006年度は12回の活動が行われ、延べ602名の方が参加されました

元気がなくなった森も



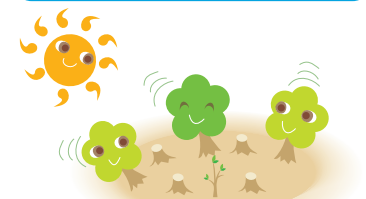
人の手が入らない森は木が茂りすぎて、太陽の光や風の通りがさまたげられます。

間伐をすれば



間伐は、木々の間に光や風を呼び込むために行うもので、不要な木を取り除きます。

元気な森がよみがえります



間伐した森はすっかり元気を取り戻します。



ボランティアで参加した従業員とその家族

間伐材はいろいろ有効利用します



ログハウス



木工細工

木が少ない場所には植林を



森の専門家の指導を受けながら苗を育てています。

社外の方のご意見

市民参加による森林ボランティア活動「こうべ森の学校」が立ち上げられて4年の歳月が流れました。登録会員は約500人に及ぶ大きな組織になりました。

再度公園へ来ますと、周辺の森はきれいに下草が刈られ、間伐がなされ、陽の光が地面まで届いています。手入れが行き届いた森では、つつじや山桜の新しい息吹も見られます。小鳥のさえずりも森と調和しており、人々は自然の中で胸いっぱい森の空気を吸い、生命の脈動を感じ取ります。

私たちは森林での活動の過程で、森の仕組みや、環境の保全や動植物のいとなみ、さらに、森林の活用まで幅広く学ぶことができました。そして、間伐材を使って山道を補修したり、苗木を育てたり、ペンダント作りを楽しんだり、つるで籠や帽子を編んだりしました。多目的ホールのある大きく立派なログハウスも完成しました。

また、森から多くのことを学び、森に癒され、森との共生の素晴らしさを体験してきました。もう一つ嬉しいことは、そのような活動を通して、多くの人たちとふれあい、交流し、絆が広がり、深まって、新しい仲間がたくさんできたことです。

このボランティア活動を支援してくださっている伊藤ハムさんに感謝するとともに、これから仲間として一緒に学び、楽しみ、汗を流していきたいものと考えています。



こうべ森の学校 東郷 賢治 氏

クリーンアップ活動

水は弊社の生産活動に欠かすことができない貴重な資源です。

水辺の環境を保全し、豊かな自然環境を残していくために、

主要な工場がある地域を中心に、海岸、河川、湖沼のクリーンアップ活動を行っています。

北海道 小樽市 第28回クリーンアップ 大浜ドリームビーチ 実施：2006年9月 参加者：26名	宮城県 伊豆沼・内沼クリーンアップキャンペーン 実施：2006年3月、9月 参加者：38名(3月) 35名(9月)	富山県 小矢部市 小矢部市530運動 実施：2006年5月 参加者：56名	千葉県 ふなばし三番瀬 クリーンアップ2006 実施：2006年10月 参加者：63名
---	--	--	--

家族みんなが参加できるのはとても良かったです

いろいろなごみがいっぱいあったネ

街の方や他の社員と仲良くなりました

いい汗をかいて気分、サイコー!

愛知県 梅田川ふれあいクリーン作戦 実施：2006年9月 参加者：15名	兵庫県 ビーチクリーンアップ in SUMA(春)(秋) 実施：2006年4月、9月 参加者：38名(4月) 19名(9月)	兵庫県 クリーンアップ in 甲子園浜 実施：2006年10月 参加者：57名	佐賀県 九州工場周辺清掃 実施：2006年7月、10月 参加者：46名(7月) 52名(10月)
---	---	--	---

各工場・事業所周辺の美化活動

水辺のクリーンアップばかりでなく、各工場・事業所周辺と従業員の通勤経路を中心とした清掃活動を定期的実施しています。清掃するだけでなく、従業員のマナー、モラルの向上にもつなげていきます。

本 社

実施：毎月第3金曜日

街の人に喜んでいただきました

東京工場

実施：毎週木曜日

社外の方のご意見

伊藤ハムさんの本社がある兵庫県西宮市は、平成15年に全国初の環境学習都市宣言を行い、環境学習を通じた持続可能なまちづくりを進めています。平成18年には、兵庫県が環境学習推進本部を設置し全県的な活動の展開を目指しています。こうした社会の動きの中で、伊藤ハムさんのように地域に根ざした環境活動を会社を挙げて取り組まれていることは、企業の社会貢献活動の具体的な実践事例として高く評価されるものと考え

ています。国指定の鳥獣特別保護地区である甲子園浜での地域団体との共同による「クリーンアップin甲子園浜」の活動。公立小学校での「食」をテーマとした「環境学習支援企業プロジェクト」への参加。子どもたちの自然体験を促進する「食とeco」わくわく探検隊の実施など、さまざまな活動を展開されてきました。今後は、伊藤ハムさんがLEAF企業会員の連携による地域に根ざした社会貢献活動の先頭に立っていただくことを願っています。



こども環境活動支援協会 事務局長 小川 雅由 氏

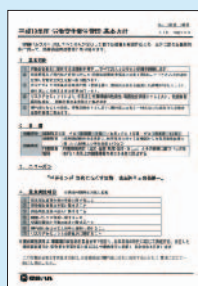
3 従業員とのかかわり

伊藤ハムグループは、すべての人が安心して働ける職場を実現するため、以下に定める基本方針に従って、労働安全衛生管理に取り組みます。

労働安全衛生と健康づくり

労働安全衛生管理基本方針（平成19年度）

1. 労働安全衛生に関する法規制を遵守し、すべての人々の安全と健康を確保します。
2. 全従業員及び構内協力会社に対して、労働安全衛生管理基本方針を周知し、すべての人々の協力を得て労働安全衛生活動に取り組みます。
3. すべての人々が労働安全衛生の高い意識を持ち、労働安全衛生を優先した作業が行えるように、繰り返し労働安全衛生教育を行います。
4. リスクアセスメントにより、作業及び作業環境の危険性・有害性を明確にすると共に、危険有害要因を除去し、労働災害の未然防止に努めます。
5. 構内協力会社との連携、情報交換を十分に行い、構内協力会社と一体となった総合的な労働安全衛生管理に努めます。



中央安全衛生委員会

伊藤ハムグループの全部門で安全衛生活動を進めていくために、毎年期初に中央安全衛生委員会を開催しています。



2007年度 中央安全衛生委員会

委員会では、年度の「労働安全衛生管理基本方針」を審議・承認し、これに従って全社全部門で安全衛生活動を進めていくこととなります。

安全衛生監査

労働災害や職業性疾病の発生を防止し、危険のない職場の実現を目指して、CSR本部環境安全推進課と工場の安全管理者等で構成する監査チームが、年度の安全衛生監査計画に沿って主要事業所の監査を行い、継続的改善に努めています。

監査プログラムは書類監査とプラント監査からなり、2006年度は39事業所の監査を行い、遵法の指導と危険要因の改善に取り組みました。



プラント監査

安全衛生教育

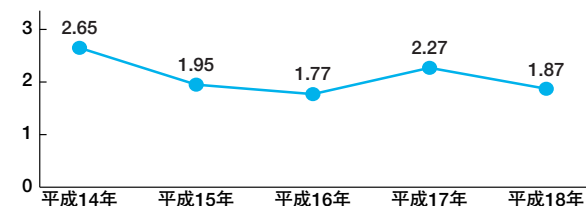
新入社員の集合研修では、安全に仕事をするための基本を身につけるために、「労働安全衛生の基本」の講義をカリキュラムに取り入れています。また、生産工場では、主任昇格時に監督者安全衛生教育を実施し、従業員の安全の確保と安全衛生意識の向上に取り組んでいます。



監督者安全衛生教育

千人率の推移（伊藤ハムグループ）＜休業4日以上災害＞

※千人率とは…労働者1,000人当たり、1年間に発生する死傷者を示すもの。



＜参考＞平成16年食料品製造業：4.70

心のほっとライン

従業員のメンタルヘルスに対応するために外部専門機関と提携し、専門的支援を行っています。

主な内容

- ①「伊藤ハムグループ 心のほっとライン」という無料の電話相談を開設し、問題解決に向けて専門的支援を行う。
- ②ストレスチェックアンケートを実施し、従業員のストレスについて自身で客観的に理解したり、仕事のストレス判定による職場診断を行う。
- ③管理職などへの研修を実施。



本社事務所のポスター

健康情報の提供

心身が健康でなければ、お客様に信頼していただける仕事はできません。伊藤ハム健康保険組合では、健康診断、人間ドック、ウォーキング大会やメンタルヘルスなど、健康づくりに関する情報を、社内イントラネットを利用して従業員に向けて発信しています。



環境報告



環境宣言

弊社は創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」ことを社是として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。

一方、1980年代後半から環境問題が地球規模となり、経営の新しいパラダイムが求められてまいりました。私たちはこの変化に対応し、継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を通じて、経営品質の高揚を図るべく新たに環境にかかわる基本理念を掲げ、全従業員が一丸となった活動を展開することを宣言します。

基本理念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、社会・環境報告書により情報開示します。

「第2次中期環境目標」の最終年度である2006年度は、目標達成に向けて冷凍機やボイラーを効率の高いタイプへ更新したり、断熱効果の高い塗料による屋根の塗装、冷凍設備のデフロスト水をトイレの洗浄水として利用するなど、効率的な運用に努めました。目標を達成している工場もありますが、一方では生産量の減少や生産品目の構成の変化のため、目標未達成の工場もあります。全体としては目標未達成の項目が多く、次のとおりの結果となりました。

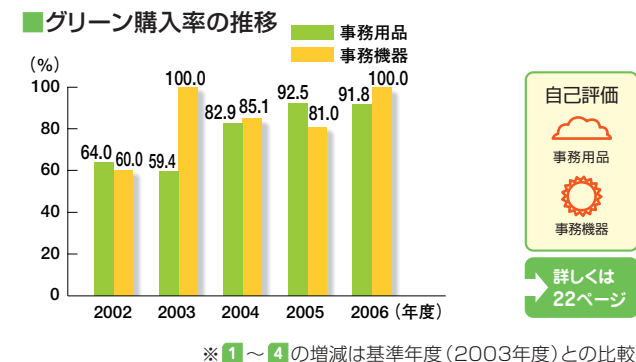
第2次中期環境目標

項 目	指 標	基準年度 (2003年度)	2006年度目標値		2006年度結果		評価
			数値	増減	数値	増減	
1) 省エネルギー、省資源の推進	・ 総エネルギー使用量 (l/t)	442	424	▲4.0%	504	13.9%	
	・ 用水使用量 (m³/t)	31.9	30.7	▲4.0%	35.4	10.8%	
2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進	・ 廃棄物排出量 (kg/t)	189	181	▲4.0%	181	▲4.1%	
	・ リサイクル率 (%)	89.4	100.0	10.6ポイント	98.1	8.7ポイント	
3) 温室効果ガスの排出削減	・ 二酸化炭素 (CO₂) 排出量 (kg-CO₂/t)	809	777	▲4.0%	883	9.0%	
	・ 事務用品のグリーン購入率 (%)	59.4	100.0	40.6ポイント	91.8	32.4ポイント	
4) グリーン購入の推進	金額ベース	59.4	100.0	40.6ポイント	91.8	32.4ポイント	
	数量ベース	100.0	100.0	—	100.0	—	
5) 環境管理体制の充実	・ グループ会社のISO14001認証取得推進						
	・ 環境監査の継続実施						

※1)～3)は生産原単位 ※総エネルギー:原油換算(購入電力+燃料+購入蒸気) ※5)は単年度目標を設定していません。継続して推進、実施します。

4 グリーン購入の推進

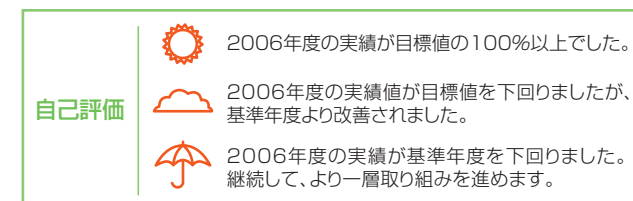
事務用品のグリーン購入率を**32.4ポイント**高めました。(事務機器は**100%**を達成しました)



5 環境管理体制の充実

ISO14001の認証取得と環境監査の実施については継続して取り組んでまいります。

項 目	2006年度の結果
ISO14001	1事業所(小矢部工場)で認証取得(累計15事業所)
環境監査	8事業所で実施



第3次中期環境目標

「第2次中期環境目標」に基づく取り組みは一区切りがつかしました。目標設定当時とは生産量、生産品目とも大きな変化があり、さまざまな対策を実施したものの良い結果は残せませんでした。2007年度以降は「第3次中期環境目標」の達成を目指して取り組みを進めます。第3次中期環境目標は、2006年度を基準年度とし、2007年度から2009年度までの3年で総エネルギー使用量、用水使用量、廃棄物排出量、二酸化炭素排出量を生産原単位でそれぞれ3%削減するとともにリサイクル率、グリーン購入率を100%にすることを目標としております。目標達成に向けて全従業員が一丸となって積極的に取り組んでいきます。

項 目	指 標	目標年度	単年度目標		
		2009年度	2007年度	2008年度	2009年度
1) 省エネルギー、省資源の推進	・ 総エネルギー使用量 (GJ/t)	▲3.0%	▲1.0%	▲1.0%	▲1.0%
	・ 用水使用量 (m³/t)	▲3.0%	▲1.0%	▲1.0%	▲1.0%
2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進	・ 廃棄物排出量 (kg/t)	▲3.0%	▲1.0%	▲1.0%	▲1.0%
	・ リサイクル率 (%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
3) 温室効果ガスの排出削減	・ 二酸化炭素 (CO₂) 排出量 (kg-CO₂/t)	▲3.0%	▲1.0%	▲1.0%	▲1.0%
4) グリーン購入の推進	金額ベース	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	数量ベース	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
5) 環境管理体制の充実	・ グループ会社のISO14001認証取得推進				
	・ 環境監査の継続実施				

※1)～3)は生産原単位 ※総エネルギー:熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気) 総エネルギー使用量の指標を熱量換算に変更しました。
※5)は単年度目標は設定していません。継続して推進、実施します。

お知らせ

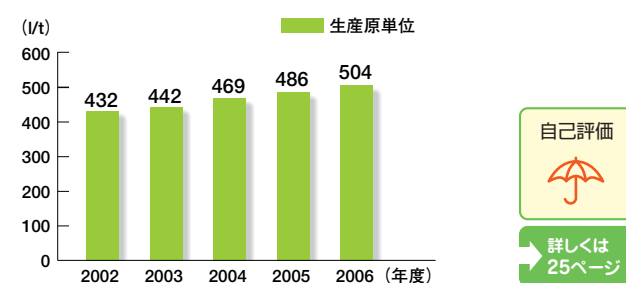
重油を燃料とするコージェネシステムの廃止

重油価格の高騰の影響を受け、2006年11月より、重油を燃料とするコージェネシステムを廃止しました。その影響として、一部発電に依存していた電力を購入電力に切り替えることによって電力購入量が増加するとともに、コージェネの廃熱を回収してつくっていた蒸気や温水を都市ガスや重油を燃料としたボイラーで補うこととなり、その分の燃料使用量が増加し、エネルギー効率も低下します。しかしながら、二酸化炭素の排出量は、電力購入量の増加より重油使用量の減少の影響が大きく、減少する傾向にあります。なお、西宮工場の都市ガスを燃料とするコージェネシステムは継続して稼働しています。

1 省エネルギー、省資源の推進

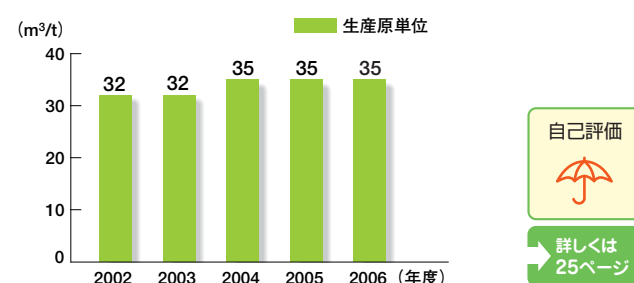
総エネルギー生産原単位は**13.9%**増加しました。

■総エネルギー使用量の推移



用水生産原単位は**10.8%**増加しました。

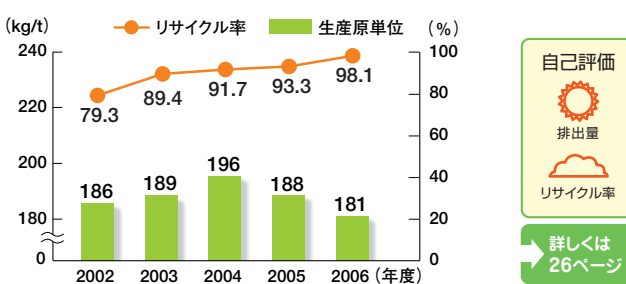
■用水使用量の推移



2 廃棄物の削減とリサイクルの推進

廃棄物生産原単位は**4.1%**削減。
リサイクル率を**8.7ポイント**高めました。

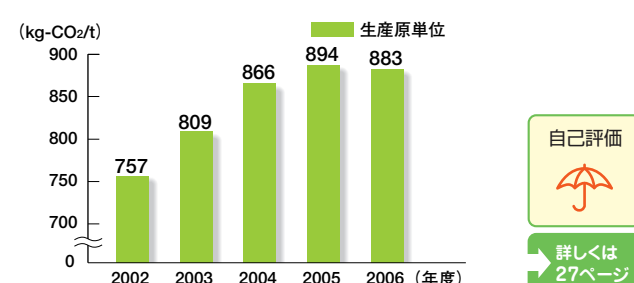
■廃棄物排出量とリサイクル率の推移



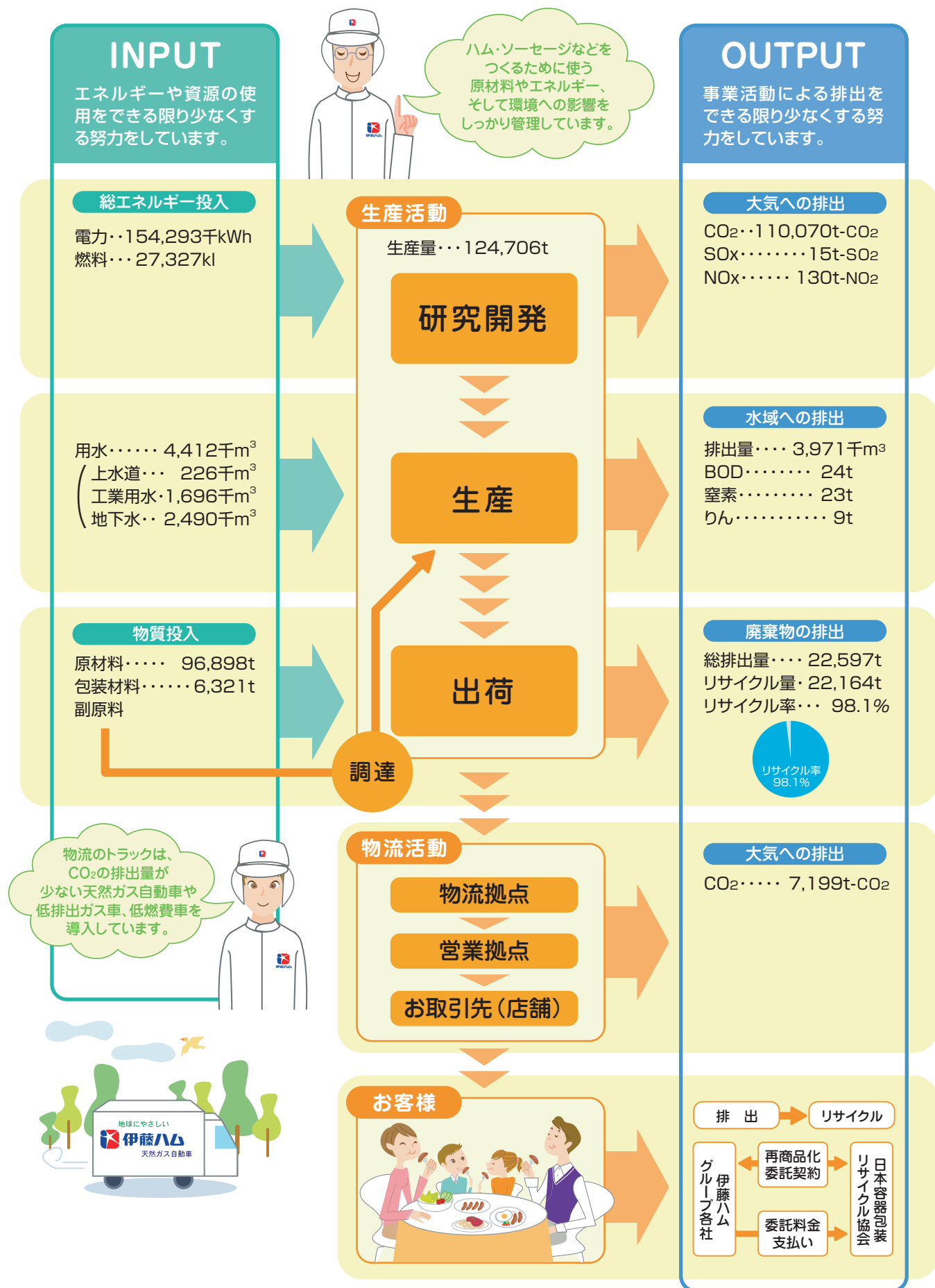
3 温室効果ガスの排出削減

二酸化炭素 (CO₂) 生産原単位は**9.0%**増加しました。

■二酸化炭素 (CO₂) の排出量の推移



2 環境負荷の全体像



伊藤ハムの環境保全活動

省エネルギー・地球温暖化防止の取り組みを進めています。

➡ P25

資源の枯渇を防ぐために廃棄物の削減とリサイクルを進めています。

➡ P26

環境汚染を防ぐために大気・水域への排出を最小限に抑えています。

➡ P27

3 環境保全活動の沿革



経営方針

社会性報告

環境報告

環境データ集

4 環境マネジメント

持続可能な社会の構築に貢献するとともに環境保全活動の効果を高めるために、環境マネジメントシステムを構築し運用しています。

環境マネジメントの推進組織



環境監査の実施

事業所内で実施する内部環境監査のほかに、環境汚染や環境事故を未然に防止し環境保全活動のさらなるレベルアップを図るため、CSR本部環境安全推進課と工場環境管理責

2006年度に監査した事業所

伊藤ハム：六甲工場、神戸工場、西宮工場、豊橋工場、東京工場
関連会社：サンキョーミート(株)有明ミート工場、
霧島ミート工場、ファーム部

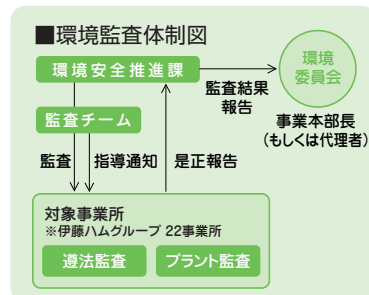
監査項目

環境関連法遵守状況、公害防止管理、廃棄物管理、化学物質管理、環境パフォーマンス管理など

任者などで構成する監査チームが、年度の環境監査計画に沿って主要事業所の監査を実施しています。

監査結果

2006年度の監査の結果、遵法状況と環境関連施設などの管理状況に、大きな問題はありませんでした。



ISO14001認証取得

環境マネジメントシステムを効果的に運用し継続的な改善を実施するために、国際標準規格であるISO14001の認証取得を進めています。

2006年度は8月に伊藤ハム食品(株)小矢部工場が認証取得しました。その他のすでに認証取得している事業所についても、継続的な改善を進め、更新審査やサーベイランスの際には向上の評価を得られるように環境管理のレベルアップに努めています。

認証取得事業所一覧 ▶ P32



小矢部工場

登録証

PDCAサイクル

組織が自ら環境方針及び目的を定め、その実現のための計画(Plan)を立て、それを実施及び運用(Do)し、その結果を点検(Check)し、さらに次のステップを目指した見直し(Action)を行うというPDCAサイクルを確立し、循環させます。それによって、環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境に与える負荷を減少させることを目的としています。



グリーン購入の推進

伊藤ハムグループでは「グリーン購入基本方針」と「グリーン購入ガイドライン」を制定し、省エネ・省資源など、環境に配慮した物品の優先的な購入に取り組んでいます。

今後も引き続き、環境に配慮した物品購入に取り組んでいきます。

グリーン購入一覧 ▶ P32



【グリーン購入基本方針】(2001年制定)

地球環境問題が深刻化する中で、持続可能な社会をいかに実現するかが世界共通の課題になっています。その実現のための取り組みの一つとして、経済活動を支える全ての製品やサービスで、環境に与える負荷ができるだけ小さい製品の優先的な購入を進める必要があります。資源採取から廃棄までの製品のライフサイクルを考慮して、「環境汚染物質の削減」、「省エネルギー・省資源」、「持続可能な資源の利用」、「長期使用可能」、「再使用可能」、「再生素材等の利用」、「処理・処分容易性」等の観点から製品、資材等の購入を行い、「廃棄物の減量化」と「環境負荷低減」をめざします。

【グリーン購入基本原則】(2001年制定)

1. 二酸化炭素などの地球温暖化ガス、フロンなどのオゾン層破壊物質、窒素酸化物などの大気汚染物質など、環境や人の健康への被害を生ずる恐れのある物質を使用しないか、使用量を削減していることを配慮したものとする。
2. 資源の枯渇問題を考え、省資源や省エネルギーに配慮したものとする。
3. 持続可能な資源利用に配慮したものとする。
4. 修理や部品交換の容易さ、保守・修理サービス期間の長さ、拡張機能性を考慮して、長期使用可能に配慮したものとする。
5. 再使用が可能で、その使用回数が多くなることを配慮したものとする。
6. リサイクルしやすい素材の使用や、素材ごとに分離・分解・分別がしやすいことに配慮したものとする。
7. 製品は、再生された材料及び再生品使用比率の高い材料を使用したものに配慮したものとする。
8. 廃棄される時に処理・処分が容易であることに配慮したものとする。
9. ISO14001認証取得及び環境に配慮する情報を公開し、環境保全に積極的な事業者が製造・販売している製品を配慮する。
10. 製品や製造・販売事業者に関する環境情報を積極的に入手して活用する。



関係法規及び法の遵守

環境汚染防止の観点から、グループの事業活動にかかわる環境関連法や各地域での環境関連の保全協定などの遵守はもちろんのこと、事業所ごとに自主基準値を設けて環境管理に取り組んでいます。事業所独自の定期的なチェックによって法令遵守状況を確認するとともに、さらに各事業所に対し本社の環境担当者などによる「環境監査」を実施し、法令遵守に万全を期しています。

伊藤ハムグループの事業所に適用される環境関連法の主なものには次のようなものがあります。

- 大気汚染防止法
- 水質汚濁防止法
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
- 食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）
- 資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）
- 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律（フロン回収破壊法）
- 特定の化学物質の環境への排出量等の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）
- エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネルギー法）
- 地球温暖化対策の推進に関する法律（地球温暖化対策推進法）
- 労働安全衛生法
- 自治体との環境保全協定 など

環境管理へのお問い合わせ

2006年度は次のようなお問い合わせをいただきました。お問い合わせに対してはその都度、迅速に対応しています。対応策実施後、効果を確認し、先様に報告しご理解をいただいています。

	内容	対 応 策
騒音について	工場から夜間に騒音がする。	夜間の騒音を低減するために排気ファンを自動的に低速運転に切り替える設定をしていましたが、停電による制御器の校正を忘れたことが原因で夜間に高速運転したためと判明しました。制御器を停電保証型に交換しました。
	工場から異常音がする。	送風ファンの内部に固形物が付着して振動が発生、ダクト内で共鳴現象を起こしていました。送風機内の固形物の除去、羽根を交換しました。再発防止のため、装置内部を定期的に点検することになりました。
悪臭について	工場からの臭気が気になる。	燻煙装置に設置している排気処理装置が十分ではないために、排気の煙臭が発生していました。都市ガスを使用した煙を焼却する装置を設置しました。

緊急時の対応策

事業所の管理範囲外や敷地外への環境汚染や事故などの突発的事態を想定し、影響の拡散を防止し汚染を最小限に抑え、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って、定期的に対応訓練を実施しています。万一事故が発生した場合は、社内間での連絡と地域住民や行政機関への連絡を円滑に行うため、「環境関連の緊急時連絡システム」を運用しています。

事業所名	訓練の内容	参加者数
伊藤ハム株式会社		
九州工場	化学薬品の漏洩対応訓練など	11人
六甲工場	汚泥・汚水の漏洩対応訓練など	9人
神戸工場	消火訓練	10人
西宮工場	廃油の漏洩対応訓練など	29人
豊橋工場	フロンガスの漏洩対応訓練など	34人
東京工場	化学薬品の漏洩対応訓練など	9人
船橋工場	廃油の漏洩対応訓練など	28人

伊藤ハムデイリー株式会社

東北工場	汚水の漏洩対応訓練など	20人
小樽工場	フロンガスの漏洩対応訓練など	4人

伊藤ハム食品株式会社

小矢部工場	火災発生対応訓練など	111人
-------	------------	------

サンキョーミート株式会社

有明ミート工場	汚水の漏洩対応訓練	11人
霧島ミート工場	火災発生対応訓練	70人
ファーム部	汚水の漏洩対応訓練	4人

伊藤ハム物流株式会社

仙台共配センター	火災発生対応訓練	135人
----------	----------	------



消火訓練（神戸工場）



化学薬品の漏洩対応訓練（東京工場）

汚水の漏洩対応訓練（有明ミート工場）

環境会計

2001年度より主要工場を対象に環境関連のコストや、投入したコストにともなう環境保全効果を集計し、環境経営に

利用しています。前期との比較を容易にするため、前期実績と当期実績及び増減値を記載しています。

2006年度環境会計の分析

高効率冷凍設備への入れ替えや、加熱設備の断熱工事、建物の断熱塗装などの省エネルギー対策、製品の加熱処理装置の排気ガス対策を実施したため、投資額は前年度より増加

しました。費用額では環境関連設備のメンテナンス費用の増加、容器包装リサイクル法の再商品化委託料等が増加しましたが、その他の経費節減により全体では減少しました。

■ 環境保全コスト		(単位:千円)					
分 類	主な取り組み内容	投資額			費用額		
		前期	当期	増減	前期	当期	増減
事業エリア内コスト		127,768	197,626	69,858	1,068,784	992,774	▲ 76,010
公害防止コスト	環境関連施設の改善、維持管理	17,660	64,254	46,594	667,413	604,731	▲ 62,682
地球環境保全コスト	省エネルギー設備の設置、対策費用	107,204	125,307	18,103	62,113	72,158	10,045
資源循環コスト	廃棄物のリサイクル及び処理処分費用	2,904	8,065	5,161	339,258	315,885	▲ 23,373
上・下流コスト	容器包装リサイクル法の再商品化委託料	0	0	0	199,563	254,173	54,610
管理活動コスト	EMSの構築、環境保全に係る人件費等	884	0	▲ 884	70,371	74,726	4,355
研究開発コスト		0	0	0	0	0	0
社会活動コスト	工場緑化・その他環境活動費用	40	0	▲ 40	15,707	13,416	▲ 2,291
環境損傷コスト	燃料使用にともなう汚染賦課金	0	0	0	3,036	2,846	▲ 190
合 計		128,692	197,626	68,934	1,357,461	1,337,935	▲ 19,526

■ 環境保全効果

効果の内容	環境パフォーマンス指標（単位）	前期	当期	原単位調整効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (MJ)	2,378,190	2,306,333	▲ 70,454
	電力エネルギー投入量 (MJ)	1,150,545	1,252,192	▲ 170,496
	その他燃料投入量 (MJ)	1,227,645	1,054,141	100,042
	用水の投入量 (千m ³)	4,662	4,412	▲ 29
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	118,570	110,070	1,405
	廃棄物総排出量 (t)	24,845	22,597	761
	廃棄物最終処分量 (t)	13	9	3
	総排水量 (m ³)	4,195	3,971	▲ 27
	BOD排出量 (t)	47	24	20
	SOx排出量 (t)	12	15	▲ 4
その他	容器包装使用量 (t)	5,345	6,720	▲ 1,695

*指標の値 原単位調整効果：生産原単位を加味した削減効果
【前期投入量(排出量)×(当期生産量／前期生産量)－当期投入量(排出量)】
*当期生産量＝124,706t、前期生産量＝132,643t
*エネルギーの投入量は、購入電力、燃料、購入蒸気を熱量換算した値(MJ)

■ 環境保全対策にともなう経済効果		(単位:千円)	
効果の内容		総金額	原単位調整金額
収 益	廃棄物の有価売却による収益	25,009	16,279
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減(電力・燃料・購入蒸気)	▲ 32,416	▲ 203,275
	用水に係る費用の削減	21,994	5,551
	廃棄物処理費の削減	35,150	14,255

*指標の値 収益：当期収益
費用削減：前期に対する費用削減額【前期費用－当期費用】
原単位調整金額：収益・生産原単位を加味した収益【前期収益×(当期生産量／前期生産量)－当期収益】
費用削減：生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×(当期生産量／前期生産量)－当期費用】

集計方法

- 投資額及び減価償却費は、100%環境目的のもののほか、環境改善機能を有する生産設備については按分集計しています。
- 環境保全効果については原単位調整効果、経済効果については、効果の総金額と原単位調整金額の両方で集計しました。
- 公表フォーマットは「環境会計ガイドライン(2005年度版)」に沿っています。

2006年度の集計結果

集計期間：2006年4月1日～2007年3月31日

集計範囲：伊藤ハム株式会社

（九州工場、六甲工場、神戸工場、西宮工場、豊橋工場、中部プラント、東京工場、船橋工場）

伊藤ハムデイリー株式会社（東北工場、小樽工場）
伊藤ハム食品株式会社（小矢部工場）

5 環境負荷低減の取り組み

生産工場やオフィス、物流部門において、電力・燃料・用水の使用量や温室効果ガス、廃棄物の排出量を削減するために、さまざまな取り組みを実践しています。

省エネルギーの取り組み

京都議定書が発効され、省エネルギー法の改正など、さまざまな分野で地球温暖化を防止する活動が求められています。

伊藤ハムグループでも全社を挙げて省エネルギーに取り組んでいます。

電力使用量の削減対策

- 断熱効果の高い塗料で屋根を塗装しました。
- 加熱ラインの蒸気配管を保温施工し放散熱量を低減しました。
- 冷凍機を高効率タイプへ更新しました。
- 省エネタイプの照明器具を導入しました。
- 冷蔵庫の冷媒ポンプにインバータを設置しました。



断熱効果の高い塗装（豊橋工場）



保温施工した蒸気配管（六甲工場）

燃料使用量の削減対策

- ボイラーの排気ガスをボイラーの給水の昇温に利用しました。
- ボイラーを高効率タイプに更新しました。

用水使用量の削減対策

- 対象物を感知した時のみシャワーを噴霧するようにシャワー噴霧装置を改修しました。
- 冷凍設備のデフロスト水を貯水槽に貯め、トイレの洗浄水として利用する設備を増設しました。
- 真空ポンプの冷却水を再利用しました。



感知式シャワー噴霧装置（東北工場）

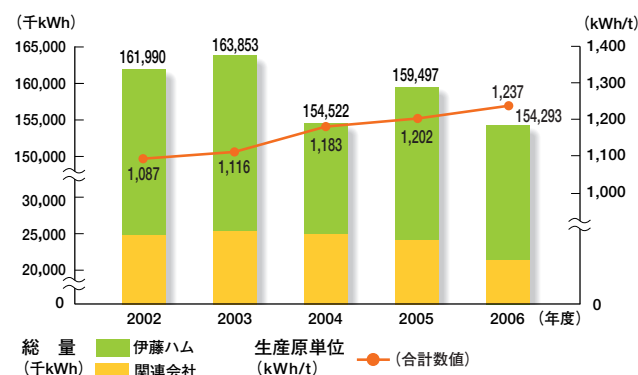


間隔が空くとシャワーが止まります。

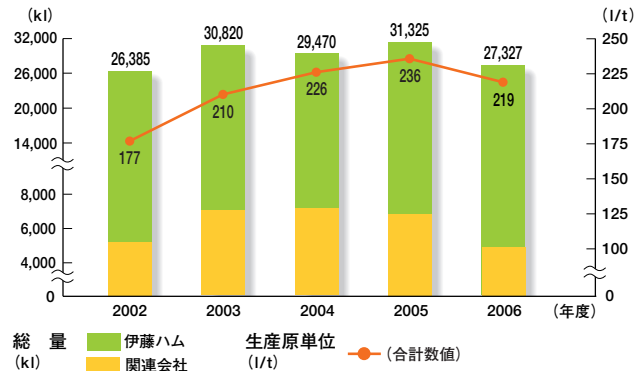
第2次中期環境目標の最終年度である2006年度は生産品目の構成の変化などのために電力、燃料、用水とも目標値を達成することができませんでした。

2006年度に実施した主な削減対策は次のとおりです。

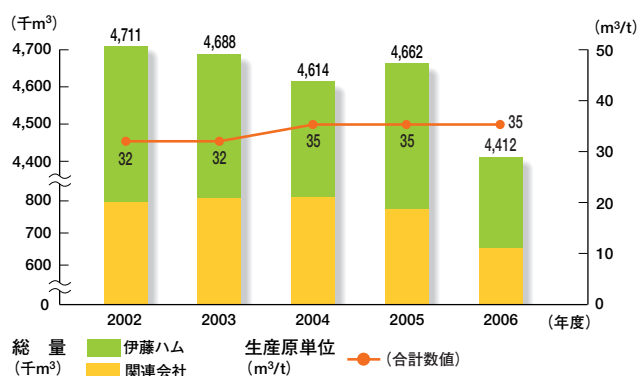
電力使用量の推移



燃料使用量の推移



用水使用量の推移



廃棄物の削減と有効利用

廃棄物の削減と有効利用はエネルギー、用水の使用量削減とともに活動の主軸となっており、中期環境目標の重要な指標の一つです。2006年度は、発生抑制（リデュース）・再

廃棄物の削減

2006年度は、生産効率の向上、従業員一人ひとりに無駄や生産ロスを少なくしようとする意識が浸透したことなどによって、特に動植物性残さが減少しました。また、豊橋工場では、廃棄物のおよそ5割を占める汚泥を一層削減するために汚泥消滅装置の実証実験を継続して実施しています。



汚泥消滅装置（豊橋工場）

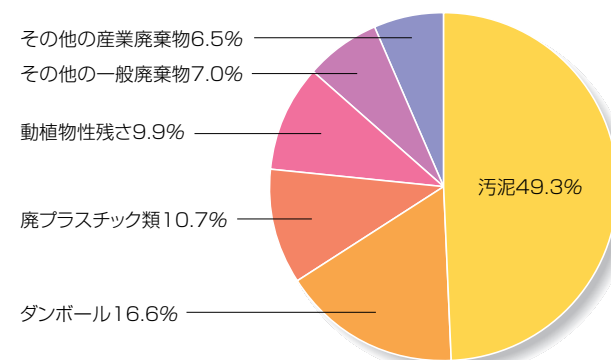
廃棄物の有効利用

廃棄物の分別を徹底し、可能な限り有効利用を進めました。廃棄物の有効利用例は次のとおりです。

廃棄物の種類	有効利用の一例
汚泥	肥料
廃油	油水分離後、燃料
廃プラスチック	プラスチック原料、燃料
紙類	製紙原料
金属くず	金属原料
ガラスくず	再生ガラス、路盤材
動植物性残さ	肥料、ペットの飼料
その他一般廃棄物	熱回収（＝サーマルリサイクル）

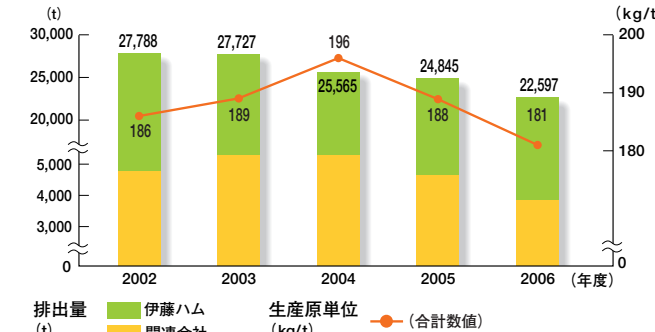
排出量の割合

生産工場から排出される廃棄物の割合は次のとおりです。

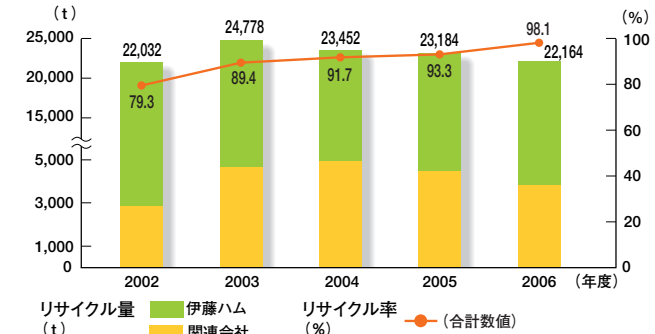


使用（リユース）・再資源化（リサイクル）の3Rを推進し分別廃棄の徹底に努めた結果、廃棄物排出量は目標を達成、リサイクル率は目標未達成ながら前年度より大幅に向上しました。

廃棄物の排出量の推移



リサイクル量とリサイクル率の推移



食品廃棄物のリサイクル

食品リサイクル法では、生産工程などで発生する食品廃棄物について、2006年度までに再生利用等の実施率を20%以上に向上させることを義務付けていました。

生産工場において、規格に合った原料を仕入れて使用の合理化に努めたり、生産効率の向上、生産工程におけるロスの低減などで食品廃棄物の発生抑制に努めるとともに、生産工程で発生したくす肉や脂などの食品廃棄物を肥料や飼料などにリサイクルした結果、義務の履行はもちろんリサイクル率100%を達成することができました。

今後はリサイクル率100%を維持するとともに、さらなる発生抑制に努めます。

温室効果ガスと化学物質、水質汚濁物質の排出抑制

温室効果ガスの排出を抑制するため、省エネルギー活動を促進するとともに、老朽化した設備の更新や定期的なガス漏れ検査などを実施し、オゾン層破壊の原因物質とされるフロンガ

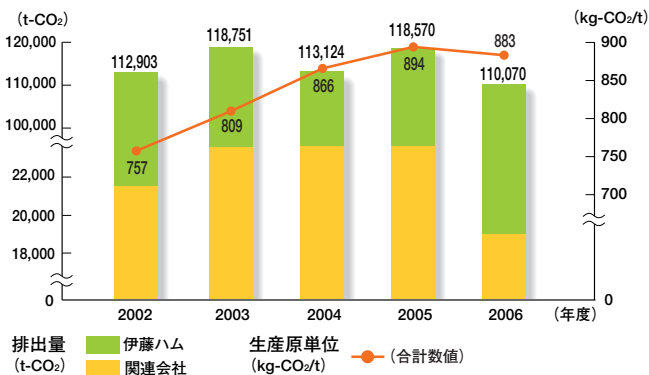
温室効果ガスの排出抑制

エネルギー由来の二酸化炭素(CO₂)の排出抑制は中期環境目標の指標として、継続して取り組んでいます。

2006年度はボイラーの蒸気圧力の適正化、重油を燃料とするコージェネシステムの廃止などで二酸化炭素排出量は110,070tとなり、基準年度(2003年度)比で7.3%減少しましたが、生産品目の構成の変化などで生産原単位では883kgとなり、9.0%増加しました。

二酸化炭素以外の温室効果ガスは、メタンが3.25t(二酸化炭素換算 68.3t)、一酸化二窒素が0.42t(二酸化炭素換算 129t)です。HFC、PFC、SF₆の排出はありません。

■ 二酸化炭素(CO₂)の排出量の推移



大気汚染物質の排出抑制

燃料由来の大気汚染物質は、燃焼機器の定期的なメンテナンスを実施するとともに、管理標準ならびに排出ガスの自主基準値を設定し、適切な燃焼管理に努めています。

法律で規制されていない燻煙装置などの燃焼設備から排出される排気ガスの浄化対策についても継続的に進め環境改善に取り組んでいます。



ガス式消煙装置(東京工場)

ス(HCFC-22)の排出量削減、漏出防止に取り組んでいます。

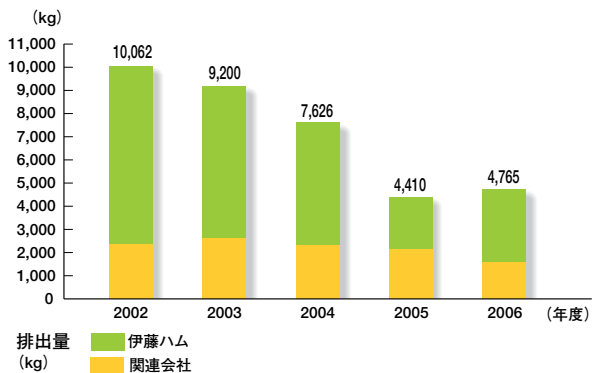
また、放流水の水質管理を徹底し、環境汚染の未然防止に努めています。

化学物質の排出抑制

老朽化した冷凍、冷蔵設備を更新するとともに、定期的なガス漏れ検査を実施するなど、使用されているフロンガス(HCFC-22)の排出抑制に努めました。2006年度のHCFC-22の排出量は、4,765kgでした。

その他の化学物質では消火設備のハロン1301を保有していますが、環境への排出はありません。

■ フロンガスの排出量の推移



水質汚濁物質の排出抑制

食品加工機械の洗浄や原料肉の解凍などのために使用した水は、排水管を経て廃水処理設備へ集め、そこでスクリーンにより大きな浮遊物を除去します。さらに、凝集剤を投入して加圧浮上処理装置で細かい浮遊物を分離します。その後、水に溶存する汚濁物質を微生物によって分解、浄化します。

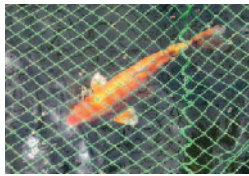
浄化した水は、法令で定められた汚濁物質の種類ごとにチェックを行い、用水路や下水道へ放流しています。

汚濁物質のチェックは、工場ごとに、法令や自治体との協定値よりも厳しい自主基準値を定めて実施し、環境汚染の未然防止に努めています。

なお、水を浄化する過程で発生した汚泥は、専門の処理業者へ搬送し、土壌改良剤などにリサイクルされています。



水質汚濁物質を取り除き浄化した水を養鯉に活用しています。(西宮工場)



その他の環境負荷低減活動

営業・物流関係

省エネルギー法が改正され、運輸部門における二酸化炭素排出量を抑制するために、事業者には、天然ガス自動車や低燃費車の導入促進やエコドライブの推進など、計画的な省エネルギーの取り組みが求められています。

伊藤ハムグループでは、低燃費・低排出ガス車などの低公害車の導入促進、使用する頻度の低い車輛の減車、経済速度での運行、アイドリングストップを励行しています。また、受発注の精度を高め誤配送を補填するための配送を低減するとともに、トラック積載率の向上、ロスのない配送ルート選択などの取り組みで二酸化炭素排出量の低減に努めています。

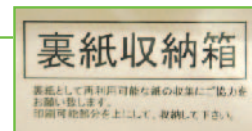
オフィス関係

オフィスでは、文具・事務用紙・事務機器類のグリーン購入に取り組んでいます。また、コピー用紙、OA用紙など紙類の使用量を削減するために、両面印刷や使用済み用紙の裏面の再利用、縮小レイアウト印刷を励行するとともに、各部門に「IT推進担当者」を配置して業務におけるペーパーレス化を推進しています。

オフィスから発生する廃棄物については、紙、プラスチック、ペットボトルなど廃棄物の種類ごとに分別箱を設置し、リサイクルに支障をきたさないように分別排出を行っています。



本社事務所コピー室内コピー用紙、裏紙収納棚



本社事務所に設置しているリサイクルBOX

工場関係

更衣室や休憩室などに人感知式照明を設置して照明の消し忘れを防止しています。特に更衣室の照明についてはロッカーの区分けごとにセンサーを取り付け、必要のない照明の点灯を防止しています。

また、資材倉庫では、搬入、搬出時に必要な箇所のみ点灯することができるよう、照明スイッチを細分化し、節電に取り組んでいます。



人感センサー付蛍光灯

商品の環境負荷低減

『ラ・ピッツァシリーズ』で使用しているピザのトレイを発泡プラスチック製から食品向けダンボール製に変更しました。以前の発泡プラスチック製トレイよりかさばらず、捨てやすくなっています。

また、外装フィルムの大きさも以前より小さくし、フィルムの使用量を減らしました。



包装材裏面の表示



識別表示・材質表示

2001年4月から、スチール缶やアルミ缶、ペットボトルに加え、プラスチック製容器包装及び紙製容器包装への識別表示についても義務化されています。プラスチック製容器包装については、リサイクル推進のため材質表示を併せて実施しています。また、ダンボールについては識別表示の義務化は定められていませんが、自主運用で識別表示を進めています。



6 環境コミュニケーション

伊藤ハムグループでは、地球環境問題への取り組みや社会活動に関する情報などを、さまざまな手段で幅広くお伝えしています。また、これらについてのご質問やご意見をいただく窓口を設けています。環境保全活動・社会活動をより一層充実させるためには、ステークホルダーである皆様方との双方向のコミュニケーションを高めることが不可欠であると考えています。

環境情報開示

情報発信は企業の果たすべき責任の重要な要素です。環境問題への取り組み姿勢や環境保全活動に関する情報は、

社会・環境報告書の発行

環境保全への取り組みをご理解いただくために、2000年から社会・環境報告書を発行しています。主な配布先は、お客様、企業、行政機関、学校、学生、従業員などです。

社会・環境報告書は、オフィス及び工場事務所のロビーにラックを設置し、来社されたお客様が自由に閲覧・お持ち帰りいただけるようにしています。

弊社ホームページ上でも開示しています。



商品展示会

毎年1回、商品展示会を開催しています。その際、お得意先や従業員などに弊社の環境保全活動、社会活動に対する理解を深めていただくために、環境・社会活動に関する取り組みを紹介しています。



社会・環境報告書やホームページを通じて積極的に開示しています。

ホームページ

弊社ホームページ上に「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設し、幅広く環境保全活動について情報を開示しています。社会・環境報告書のほか、エコピックスによる最新の環境活動の紹介や社会・環境報告書の請求もできるようになっています。また、お客様からのご意見やご感想などをお寄せいただくために、専用のメールアドレスを設けています。



ホームページ：
http://www.itoham.co.jp
専用メール：
eco@itoham.co.jp

環境フェアなどへの出展

弊社事業所が所在する自治体などで開催される環境フェアなどのイベントに出展し、環境保全活動や社会活動に関する情報を開示しています。



従業員教育・地域とのコミュニケーション

「地球にやさしい」企業風土の醸成、従業員一人ひとりの環境保全意識を高めるために、社内外の環境教育と社内啓発活動を実施しています。

環境教育

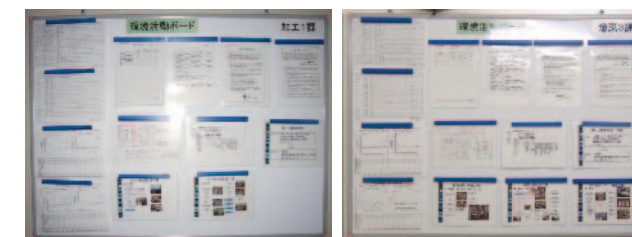
- 新入社員の環境教育
- 環境マネジメントシステム教育
- 工場における一般教育・専門教育
- 社内報「躍動」に環境関連記事掲載
- 職場に「環境情報掲示板」を設置
- 社外の環境関連教育・セミナーなど



社内報



新入社員の環境教育



環境情報掲示板(船橋工場)

地域との交流

NPO法人「こども環境活動支援協会」(西宮市)の「環境学習支援プロジェクト2006」に参加し、環境学習「出前授業」を行いました。



東山台小学校(西宮市)

動を実施しています。また、ボランティア活動を通じて環境のことを学ぶ、環境ボランティア体験学習を実施しています。

環境ボランティア体験学習

- 課外授業「こうべ森の学校」



大きく育ってほしい!

- クリーンアップ in 甲子園浜

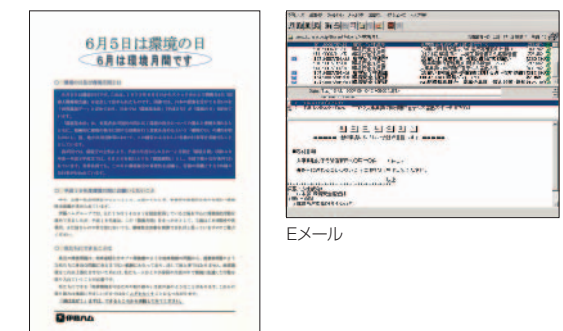


みんなで取り組むとしんどくない

浜辺がキレイになるとうれしいね

環境情報の開示及び共有化

従業員の環境保全に対する意識・関心を高めるため、社内イントラネットを利用して環境に関する情報やデータを開示しています。



Eメール

社内イントラネットの記事

伊藤ハムグループの環境データ

■ エネルギー等使用量の推移

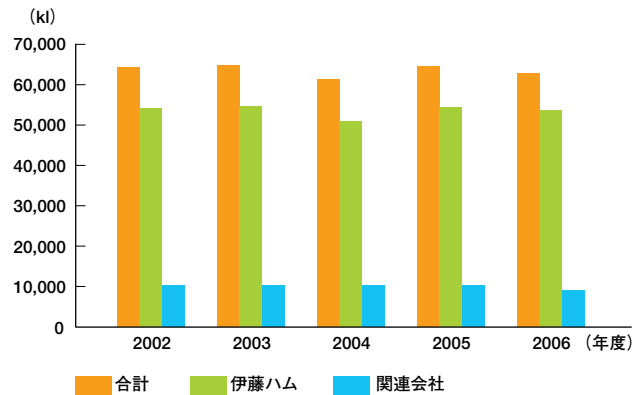
		合 計				
		2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
電力	総 量 (千kWh)	161,990	163,853	154,522	159,497	154,293
	生産原単位 (kWh/t)	1,087	1,116	1,183	1,202	1,237
燃料 ※1	総 量 (kl)	26,385	30,820	29,470	31,325	27,327
	生産原単位 (l/t)	177	210	226	236	219
総エネルギー ※2	総 量 (kl)	64,445	64,845	61,256	64,490	62,805
	生産原単位 (l/t)	432	442	469	486	504
用水	総 量 (千m³)	4,711	4,688	4,614	4,662	4,412
	生産原単位 (m³/t)	32	32	35	35	35

		伊 藤 ハ ム				
		2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
電力	総 量 (千kWh)	137,065	138,204	129,448	135,375	132,989
	生産原単位 (kWh/t)	1,056	1,085	1,173	1,186	1,242
燃料 ※1	総 量 (kl)	20,728	23,671	22,319	24,526	22,377
	生産原単位 (l/t)	160	186	202	215	209
総エネルギー ※2	総 量 (kl)	54,155	54,569	50,923	54,307	53,714
	生産原単位 (l/t)	417	428	462	476	501
用水	総 量 (千m³)	3,918	3,878	3,803	3,889	3,758
	生産原単位 (m³/t)	30	30	34	34	35

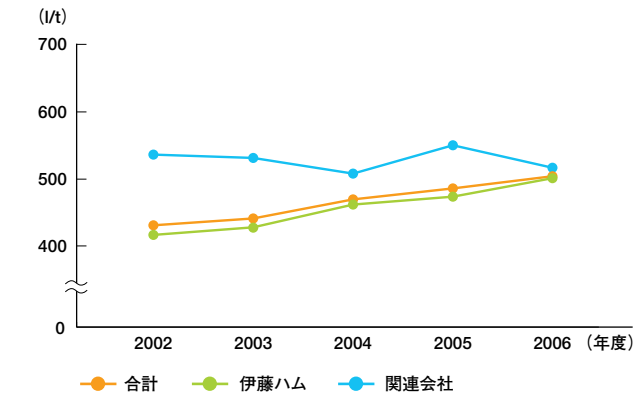
		関 連 会 社				
		2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
電力	総 量 (千kWh)	24,925	25,650	25,073	24,123	21,304
	生産原単位 (kWh/t)	1,298	1,324	1,233	1,303	1,211
燃料 ※1	総 量 (kl)	5,658	7,149	7,151	6,800	4,950
	生産原単位 (l/t)	295	369	352	367	281
総エネルギー ※2	総 量 (kl)	10,290	10,276	10,333	10,183	9,092
	生産原単位 (l/t)	536	531	508	550	517
用水	総 量 (千m³)	793	810	811	773	654
	生産原単位 (m³/t)	41	42	40	42	37

※1:原油換算 ※2:総エネルギー:原油換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

■ 総エネルギー使用量の推移



■ 総エネルギー生産原単位の推移



■ 二酸化炭素 (CO₂) の排出量の推移

		合 計				
		2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
排出量 (t-CO ₂)		112,903	118,751	113,124	118,570	110,070
生産原単位 (kg-CO ₂ /t)		757	809	866	894	883

		伊 藤 ハ ム				
		2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
排出量 (t-CO ₂)		91,434	95,227	89,534	95,620	91,110
生産原単位 (kg-CO ₂ /t)		704	748	812	838	851

		関 連 会 社				
		2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
排出量 (t-CO ₂)		21,470	23,525	23,590	22,950	18,960
生産原単位 (kg-CO ₂ /t)		1,118	1,215	1,160	1,239	1,077

■ フロンガス (HCFC-22) 排出量の推移

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
HCFC-22	10,062	9,200	7,626	4,410	4,765

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率の推移

		合 計									
		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度	
		排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率
汚 泥		13,478	91.3%	13,493	99.9%	12,133	100.0%	11,423	100.0%	11,146	100.0%
廃プラスチック		3,429	49.1%	2,702	79.9%	2,789	91.6%	2,739	98.1%	2,424	97.9%
動植物性残さ		3,698	50.8%	3,122	83.1%	2,993	95.8%	3,215	99.6%	2,268	100.0%
金属くず		494	95.7%	452	99.7%	500	99.9%	485	100.0%	465	100.0%
ガラス類		32	27.8%	29	31.2%	9	53.9%	11	41.1%	10	20.0%
古紙類 (OA用紙など)		276	60.5%	645	98.6%	221	98.3%	244	98.2%	311	99.5%
廃ダンボール類		4,250	100.0%	4,074	97.7%	3,981	99.9%	4,167	99.9%	3,746	99.9%
廃 油		1,122	100.0%	1,240	99.9%	1,015	100.0%	821	99.5%	717	100.0%
チップくず		262	53.1%	271	65.2%	270	67.6%	267	60.8%	270	100.0%
その他 (一般ごみ)		747	0.0%	1,699	2.8%	1,656	0.0%	1,473	0.0%	1,240	70.2%
合 計		27,788	79.3%	27,727	89.4%	25,565	91.7%	24,845	93.3%	22,597	98.1%

		伊 藤 ハ ム									
		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度	
		排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率
汚 泥		11,259	96.9%	11,158	99.9%	9,862	100.0%	9,460	100.0%	9,354	100.0%
廃プラスチック		2,934	51.3%	2,190	84.7%	2,260	91.8%	2,183	100.0%	1,974	100.0%
動植物性残さ		2,909	62.4%	2,297	89.4%	2,152	95.4%	2,367	99.8%	1,782	100.0%
金属くず		403	94.8%	378	99.7%	441	100.0%	403	100.0%	367	100.0%
ガラス類		32	27.2%	29	31.0%	9	52.8%	4	21.7%	5	36.6%
古紙類 (OA用紙など)		232	62.1%	599	99.5%	194	100.0%	217	99.8%	288	100.0%
廃ダンボール類		3,755	100.0%	3,453	97.4%	3,381	100.0%	3,585	100.0%	3,177	100.0%
廃 油		547	100.0%	551	99.8%	379	100.0%	359	100.0%	407	100.0%
チップくず		231	57.8%	237	74.6%	237	71.1%	236	67.5%	234	100.0%
その他 (一般ごみ)		733	0.0%	1,532	1.3%	1,377	0.0%	1,360	0.0%	1,165	73.8%
合 計		23,035	86.1%	22,424	89.9%	20,290	91.4%	20,174	92.8%	18,752	98.4%

		関 連 会 社									
		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度	
		排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率
汚 泥		2,219	100.0%	2,335	99.9%	2,271	100.0%	1,963	100.0%	1,793	100.0%
廃プラスチック		495	91.8%	512	59.4%	529	90.9%	556	90.6%	450	88.7%
動植物性残さ		790	95.4%	826	65.6%	840	98.4%	848	98.9%	485	100.0%
金属くず		91	100.0%	75	99.8%	59	99.3%	82	100.0%	98	100.0%
ガラス類		1	52.8%	0.2	57.6%	0.3	85.6%	7	53.3%	5	4.7%
古紙類 (OA用紙など)		44	100.0%	46	86.3%	27	86.0%	27	85.1%	22	92.8%
廃ダンボール類		495	100.0%	619	100.0%	600	99.4%	582	99.6%	569	99.4%
廃 油		575	100.0%	689	100.0%	636	100.0%	461	99.1%	311	100.0%
チップくず		30	71.1%	34	0.0%	34	42.8%	32	11.1%	37	100.0%
その他 (一般ごみ)		14	0.0%	167	17.0%	280	0.0%	113	0.0%	75	12.9%
合 計		4,754	91.4%	5,303	87.3%	5,276	93.0%	4,671	95.4%	3,845	96.7%

■ ISO14001 認証取得事業所

サイト名		認 証 機 関	登 録 年 月
伊藤ハム	西宮工場	日本環境認証機構 (JACO)	2000年 2月
	東京工場	日本環境認証機構 (JACO)	2000年 9月
	豊橋工場	日本環境認証機構 (JACO)	2000年11月
	六甲工場	日本環境認証機構 (JACO)	2001年10月
	九州工場	日本環境認証機構 (JACO)	2002年 2月
	船橋工場	日本環境認証機構 (JACO)	2003年 5月
伊藤ハムデイリー	東北工場	日本環境認証機構 (JACO)	2004年 5月
	小樽工場	日本環境認証機構 (JACO)	2006年 4月
伊藤ハム食品	小矢部工場	日本環境認証機構 (JACO)	2006年 8月
サンキョーミート	有明ミート工場	日本海事検定キューエイ (NKKKQA)	2002年 3月
	霧島ミート工場		
	ファーム部		
伊藤ハム物流	仙台共配センター	日本品質保証機構 (JQA)	2004年 3月
ロックデールビーフ社 (オーストラリア)		NCS International Pty Ltd.	2000年 3月
ファイブスタービーフ社 (ニュージーランド)		SGS International Certification Services Pty Ltd.	2001年 1月

■ グリーン購入の推移

対象品目			グリーン購入の割合 (%)				
			2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
事務用品 (金額ベース)	文書類	筆記具、ファイルなど	80.5	55.1	95.9	96.8	94.5
		紙類	62.2	62.9	73.9	89.3	89.5
	合計		64.0	59.4	82.9	92.5	91.8
事務機器 (数量ベース)	OA機器類	パソコン、コピー機、ファクシミリなど	53.8	100.0	100.0	100.0	100.0
		オフィス家具類	71.4	100.0	79.2	74.3	100.0
	合計		60.0	100.0	85.1	81.0	100.0
その他 (数量ベース)	照明器具類	ランプ、蛍光灯器具など	49.4	55.0	62.6	44.6	63.2
	制服類	作業着など	4.0	97.2	98.5	99.0	98.3

船橋工場



所在地
〒273-0014
千葉県船橋市高瀬町24-28

エネルギー使用量と二酸化炭素(CO ₂)排出量(生産原単位)					
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
電力(kWh/t)	1,461	1,538	1,434	1,553	1,658
燃料(l/t)	72	77	69	73	69
総エネルギー(l/t)	630	676	620	663	681
用水(m ³ /t)	33	34	30	30	31
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,133	1,225	1,116	1,188	1,201

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.5	6.5	—
BOD(mg/l)	350	200	86.0	—	30.7
SS(mg/l)	80	70	51.0	—	9.1

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
排出量(t)	2,150	2,555	2,677	2,256	1,499
リサイクル率(%)	52.4	75.2	78.7	77.6	80.1

伊藤ハムデイリー株式会社 東北工場



所在地
〒987-2195
宮城県栗原市高清水来光沢20

エネルギー使用量と二酸化炭素(CO ₂)排出量(生産原単位)					
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
電力(kWh/t)	1,430	1,467	1,324	1,382	1,249
燃料(l/t)	351	452	421	454	335
総エネルギー(l/t)	591	583	545	595	547
用水(m ³ /t)	45	42	44	47	41
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,267	1,397	1,303	1,418	1,191

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.1	7.4	—
BOD(mg/l)	160	120	9.4	—	4.5
SS(mg/l)	200	100	15.0	—	5.0

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
排出量(t)	4,316	4,851	4,807	4,199	3,412
リサイクル率(%)	58.7	87.8	93.7	96.4	98.0

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(5基)	0.98	0.5	0.1	0.06
	B(1基)	8.31	0.5	0.22	0.16
	C(6基)	3.16	2.53	0.04	0.03
	A(5基)	180	150	120	99
NOx(ppm)	B(1基)	180	150	98	96
	C(6基)	950	900	940	848
	A(5基)	0.3	0.1	0.015	0.01
ばいじん(g/Nm ³)	B(1基)	0.3	0.1	0.018	0.018
	C(6基)	0.1	0.08	0.03	0.02

伊藤ハムデイリー株式会社 小樽工場



所在地
〒061-3271
北海道小樽市銭函5-61-3

エネルギー使用量と二酸化炭素(CO ₂)排出量(生産原単位)					
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
電力(kWh/t)	697	684	725	1,094	1,164
燃料(l/t)	106	108	120	125	128
総エネルギー(l/t)	291	289	313	415	437
用水(m ³ /t)	20	18	20	25	23
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	537	537	586	731	764

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.7～8.7	6.5～8.5	7.9	7.4	—
BOD(mg/l)	300	150	86.0	—	30.5
SS(mg/l)	300	150	90.0	—	37.4

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
排出量(t)	220	221	213	240	206
リサイクル率(%)	99.0	99.98	99.98	100.0	100.0

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(2基)	0.63	0.5	0.3	0.2
NOx(ppm)	A(2基)	180	150	134	84
ばいじん(g/Nm ³)	A(2基)	0.3	0.1	0.02	0.01

伊藤ハム食品株式会社 小矢部工場



所在地
〒932-0131
富山県小矢部市名畑5068

エネルギー使用量と二酸化炭素(CO ₂)排出量(生産原単位)					
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
電力(kWh/t)	1,149	1,077	1,160	1,102	1,076
燃料(l/t)	163	168	161	157	159
総エネルギー(l/t)	468	477	468	449	444
用水(m ³ /t)	41	40	32	34	33
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	853	873	850	820	817

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	6.0～8.0	6.0～8.0	7.3	6.9	—
BOD(mg/l)	50	10	2.1	—	1.1
SS(mg/l)	60	30	20.0	—	6.3

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
排出量(t)	218	230	256	231	227
リサイクル率(%)	36.2	65.7	75.1	71.1	74.4

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(2基)	2.1	0.1	0.1	0.06
	B(1基)	2.1	0.1	0.1	0.08
NOx(ppm)	A(2基)	—	150	96	87
	B(1基)	—	150	103	79
ばいじん(g/Nm ³)	A(2基)	0.2	0.1	0.02	0.02
	B(1基)	0.2	0.1	0.02	0.02

サンキョーミート株式会社 有明ミート工場



所在地
〒899-7402
鹿児島県志布志市有明町野井倉6965

エネルギー使用量と二酸化炭素(CO ₂)排出量(生産原単位)					
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
電力(kWh/t)	257	271	268	251	257
燃料(l/t)	22	78	81	82	41
総エネルギー(l/t)	65	98	101	96	92
用水(m ³ /t)	15	14	15	14	15
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	118	241	248	243	181

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.0	7.8	7.4	—
BOD(mg/l)	30	15	6.0	—	2.1
SS(mg/l)	40	15	8.0	—	4.7

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
排出量(t)	976.2	1,184	1,273	1,223	1,491
リサイクル率(%)	99.7	97.4	88.6	87.3	90.6

大気汚染物質の管理状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(5基)	1.8	1	0.13	0.09
	B	—	—	—	—
NOx(ppm)	A(5基)	—	—	97	86
	B	—	—	—	—
ばいじん(g/Nm ³)	A(5基)	0.3	0.2	0.01	0.006
	B	—	—	—	—

サンキョーミート株式会社 霧島ミート工場



所在地
〒886-0004
宮崎県小林市細野2516

エネルギー使用量と二酸化炭素(CO ₂)排出量(生産原単位)					
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
電力(kWh/t)	208	198	215	238	218
燃料(l/t)	11	12	11	11	11
総エネルギー(l/t)	67	64	68	74	69
用水(m ³ /t)	3	3	3	3	3
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	104	102	105	114	84

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～7.8	7.4	6.1	—
BOD(mg/l)	160	100	3.5	—	1.0
SS(mg/l)	200	50	23.0	—	7.1

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
排出量(t)	116	123	113	111	120
リサイクル率(%)	85.8	88.4	84.4	81.0	81.9

伊藤ハム物流株式会社



仙台共配センター

所在地
〒983-0034
宮城県仙台市宮城野区扇町7-7-10

エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
電力(kWh)	1,384,841	1,406,256	1,708,878	1,923,516	2,005,985
ガソリン(l)	—	22,000	22,000	23,000	33,263
軽油(l)	—	694,584	700,679	699,486	724,519
CO ₂ (kg-CO ₂)	—	1,873,901	1,889,896	1,889,087	1,978,610

ガソリン、軽油使用量は全営業所の合計

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
排出量(t)	—	7	6	5	7
リサイクル率(%)	—	45	50	52	90

対象:仙台共配センター — 部分はデータ未集計

中部プラント

エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
電力(kWh/t)	—	—	—	2,267	3,155
燃料(l/t)	—	—	—	286	249
総エネルギー(l/t)	—	—	—	886	1,085
用水(m ³ /t)	—	—	—	21	23
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	—	—	—	1,504	1,734

※2005年9月より稼働、2006年8月末日閉鎖

排水の水質管理状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.7～8.5	7.0	6.6	—
BOD(mg/l)	25	23	4.0	—	2.2
SS(mg/l)	30	28	16.0	—	6.2

廃棄物の排出量とリサイクル率

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
排出量(t)	—	—	—	59	29
リサイクル率(%)	—	—	—	72.2	96.0

伊藤ハムグループ 社会・環境 かるた

私たちはハム・ソーセージや調理食品をつくることによって、地球環境に負担を与えています。その負担を小さくするため、オフィスや工場などで働いている従業員がいろいろな取り組みをしているのです。また、社会に役立つさまざまな活動も行っています。今回はその内容の一部を「かるた」で紹介します。



1 はりきって
海も川も
クリーンアップ

2 力を合わせて
チームマイナス
6%

3 とっても楽しい
「食とeco
わくわく探検隊」

4 うまく汚れを
取り除いた水は
川や芝生に

5 空気を
汚さず走る
天然ガス自動車

6 むだを
なくして
省エネアップ

7 環境に
やさしいものを
グリーン購入

8 いっしょう
けんめい伝えています
環境学習

温暖化の元、
二酸化炭素を
やっつけよう

みどりを
守ろう
こうべ森の学校

ユニセフの
募金活動を
お手伝い

分別廃棄も
すっきり定着

- 1 清掃活動では、工場周辺だけでなく、海岸や河川の掃除も行っています。
- 2 チームマイナス6%とは、京都議定書で日本が約束した1990年度比で温室効果ガス排出量マイナス6%を実現するための国民的プロジェクトのことです。
- 3 「食とeco」わくわく探検隊は、地域の子どもたちに、野外での体験活動を通して食と自然の大切さを伝える活動です。自然の中を探検し、山川に住む生き物と触れ合い、森林の恵みを利用した炊事を行います。こうした体験により、命の大切さ、地球環境保護の大切さを楽しく学んでもらいます。
- 4 工場で使った水は廃水処理設備できれいにして、川に流したり芝生にまいたりしています。
- 5 天然ガス自動車は、CO₂排出量をガソリン車より2〜3割少なくできます。
- 6 省エネルギーへの取り組みとして、電力・燃料・用水使用量の削減対策を行っています。
- 7 グリーン購入とは、省エネタイプの照明や複写機などの機械を設置したり、リサイクルしやすい事務用品を購入したりすることです。
- 8 学校に出向いて行う環境学習「出前授業」は、子どもたちに環境や自然を守ることの大切さを伝える活動です。

「2006年社会・環境報告書」アンケート結果について

伊藤ハム「2006年社会・環境報告書」(2006年6月発行)のアンケートに多数お答えいただき、誠にありがとうございました。皆様からお寄せいただきました貴重なご意見・ご感想は、環境保全活動や社会・環境報告書の制作に活用させていただきます。今年度も裏面が「2007年社会・環境報告書」アンケート用紙となっております。本報告書を読まれてのご感想やお気づきの点などございましたら、ご記入の上ご送付いただければ幸いです。皆様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考にさせていただきます、環境保全活動の取り組みや社会・環境報告書の制作を進めてまいります。

2007年6月

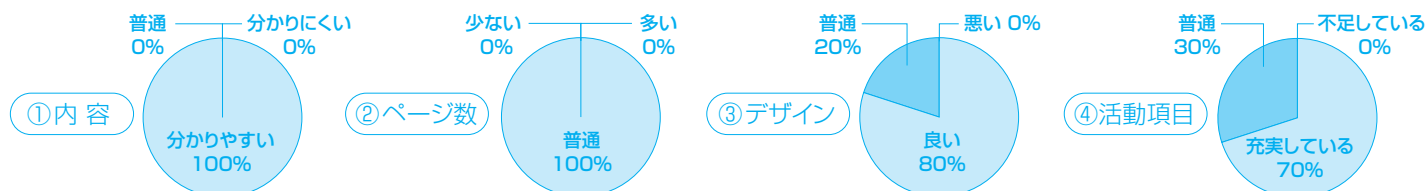
伊藤ハム株式会社 CSR本部 環境安全推進課

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

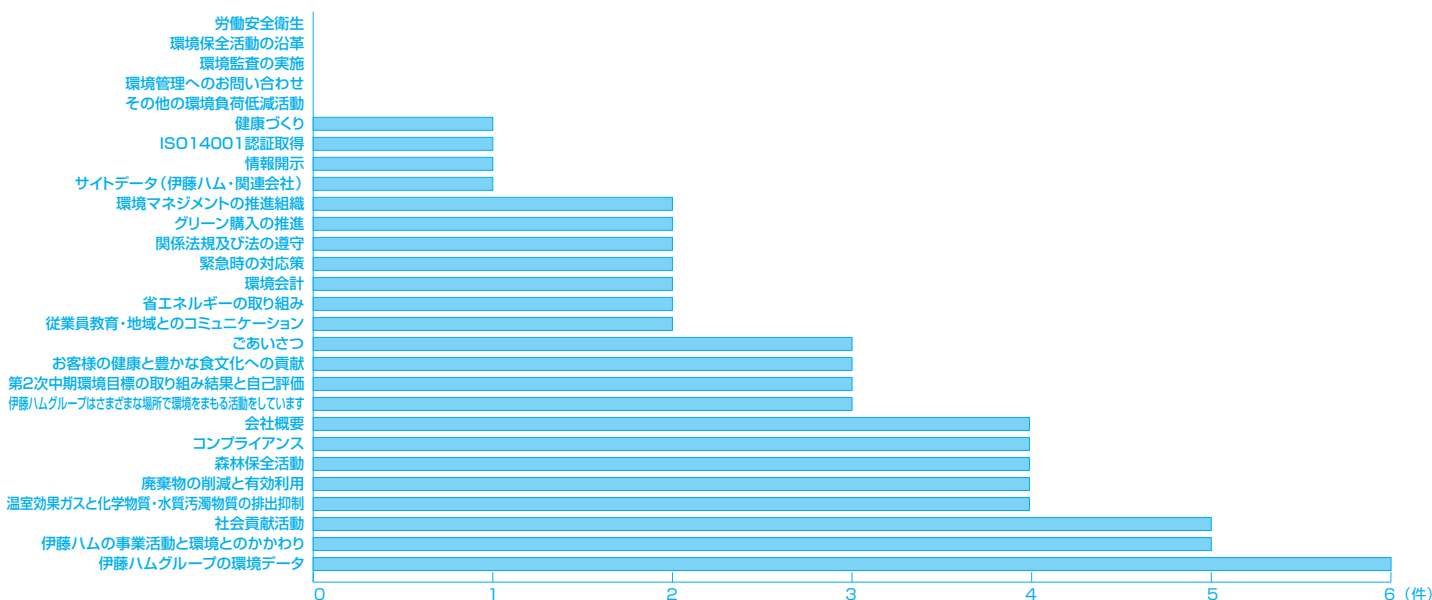
TEL: 0798-66-1289 FAX: 0798-66-1302

「2006年社会・環境報告書」アンケート集計結果(回収数10通)

1.「2006年社会・環境報告書」の評価グラフ



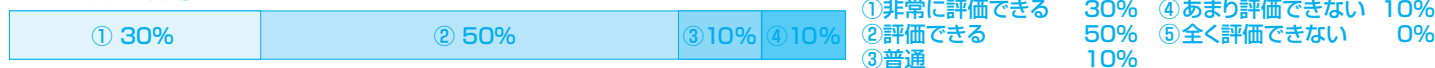
2.「2006年社会・環境報告書」の中で興味を持った内容 (件数:回答総数66件の内訳)



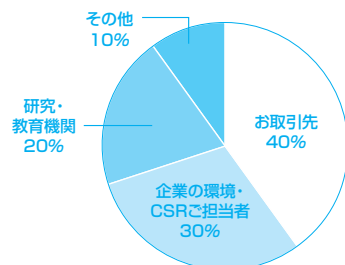
3.社会活動について



4.環境保全活動について



5.社会・環境報告書をどのようなお立場でお読みになられていますか。



6.「2006年社会・環境報告書」や環境保全活動、社会活動についてのご意見の一部をご紹介します。

- 地域の子どもたちとのふれあいを大切にして継続的な社会貢献活動を推進してください。
- 目標達成に向けて現状の要因解析を徹底して行い対策を実施してください。目標達成が会社の業績回復に貢献すると考えます。
- 食品会社のコンプライアンス重視は大切なことです。皆の期待を裏切らないように。
- 関連法規及び法の遵守を徹底してください。
- 学校に出向いて行う環境学習に期待しています。
- もっと地球温暖化防止の取り組みを進めてほしい。
- 供給先に対する環境保全活動の教育、協力要請の指導等、供給先とタイアップしたグリーン購入の促進、物流改善等を進めてください。
- 「食」という人間にとって最も大事なものを取り扱われているので、誠に大変だと思いますが「食の安全」を追求し続けてください。
- 報告書の内容は非常によく活動全体の内容が把握できました。
- 社会・環境報告書による情報開示は地域社会とのコミュニケーションを高めます。より充実させてください。
- 写真、絵、グラフが多く読みやすかった。サイトデータもグラフ化したらどうでしょうか。
- 毎日の地道な活動こそ大切だと思います。
- 社会貢献活動に力を入れていることに安心しました。製品でないところでこれだけきちんとしていることは消費者として安心して製品を買うことができます。

「2007年 社会・環境報告書」アンケート

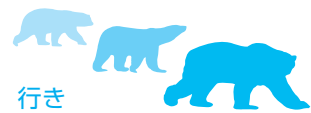
● ご意見・ご感想をお聞かせください。 ●

伊藤ハム株式会社

CSR本部 環境安全推進課 行き

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

FAX 0798-66-1302



Q1. 本報告書をお読みになったの評価をお聞かせください。

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ● 内容 | ☐ 分かりやすい | ☐ 普通 | ☐ 分かりにくい |
| ● ページ数 | ☐ 多い | ☐ 適当 | ☐ 少ない |
| ● デザイン | ☐ 良い | ☐ 普通 | ☐ 悪い |
| ● 活動項目 | ☐ 充実している | ☐ 普通 | ☐ 不足している |

Q2. 本報告書の中で、興味をもった内容についてお聞かせください。(複数回答可)

- | | |
|---------------------------------|--|
| ☐ 会社基本項目 | 1) 会社概要 2) ごあいさつ 3) 経営方針 |
| ☐ 社会性報告 | 4) 安全・安心な商品の提供とお客様の健康と豊かな食文化への貢献 5) 伊藤ハムが考える「食育」 |
| | 6) 社会貢献活動 7) 自然保護活動 8) 労働安全衛生と健康づくり |
| ☐ 環境報告 | 9) 第2次中期環境目標の取り組み結果と自己評価 10) 環境負荷の全体像 11) 環境保全活動の沿革 |
| | 12) 環境マネジメントの推進組織 13) 環境監査の実施 14) ISO14001認証取得 15) グリーン購入の推進 |
| | 16) 環境法規及び法の遵守 17) 環境管理へのお問い合わせ 18) 緊急時の対応策 19) 環境会計 |
| | 20) 省エネルギーの取り組み 21) 廃棄物の削減と有効利用 22) 温室効果ガスと化学物質、水質汚濁物質の排出抑制 |
| | 23) その他の環境負荷低減活動 24) 環境情報開示 25) 従業員教育・地域とのコミュニケーション |
| ☐ 環境データ集 | 26) 伊藤ハムグループの環境データ 27) サイトデータ |
| | 28) 伊藤ハムグループ 社会・環境かるた |

Q3. 弊社の社会活動についてどのように感じになりましたか。

- 1) 非常に評価できる 2) 評価できる 3) 普通 4) あまり評価できない
5) 全く評価できない [その理由: _____]

Q4. 弊社の社会活動について期待されることは何ですか。

.....

.....

Q5. 弊社の環境保全活動についてどのように感じになりましたか。

- 1) 非常に評価できる 2) 評価できる 3) 普通 4) あまり評価できない
5) 全く評価できない [その理由: _____]

Q6. 弊社の環境保全活動について期待されることは何ですか。

.....

.....

Q7. 本報告書をどのようなお立場でお読みになりましたか。

- ☐ お客様 ☐ お取引先 ☐ 製品の購買で担当者 ☐ 株主 ☐ 金融・投資機関 ☐ 研究・教育機関 ☐ 報道関係
☐ 行政関係 ☐ 環境NGO・NPO ☐ 伊藤ハムグループ事業所の近隣にお住まいの方 ☐ 学生 ☐ 環境の専門家
☐ 企業の環境・CSRで担当者 ☐ その他(_____)

Q8. 本報告書の内容や社会活動、及び環境保全活動に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

.....

.....

ご協力ありがとうございました。

お答えいただきましたアンケートは、個人情報を除き統計データとして利用させていただきます。

個人情報に関しましては、ご希望により次年度の「社会・環境報告書」の発送にのみ利用し、

ご本人の承諾がない限り、第三者に開示することは一切ありません。

お 名 前			性別	男・女	年齢		ご職業・勤務先	
ご連絡先	ご 住 所	〒						
	T E L							

● 次年度の「社会・環境報告書」の送付を希望されますか? ☐ はい ☐ いいえ



社会活動、環境保全活動などについてのお問い合わせ先

伊藤ハム株式会社
CSR本部環境安全推進課

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

T E L : (0798) 66-1289

F A X : (0798) 66-1302

U R L : <http://www.itoham.co.jp>

E-mail : eco@itoham.co.jp

発行 2007年6月



次回発行予定 2008年6月